

2025.10.22 記者会見

東日本大震災 震災伝承の現状と未来



公益社団法人

3.11 メモリアルネットワーク

命をつなぐ 未来を拓く

公益社団法人3.11メモリアルネットワークの活動

目的

東日本大震災の伝承を通じて

- ・災害でいのちが失われない社会
- ・被災の苦難を軽減し再生に向かえる社会の実現に貢献します

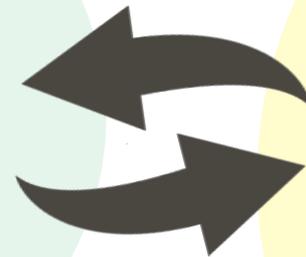
広域伝承連携部門

メンバー：1,141（入会費1,000円）
アドバイザー：20組織

3県連携
311MN基金
助成事業

講座・交流会

伝承調査



地域伝承推進部門

震災学習
プログラム

学校の
防災教育

MEET門脇

みやぎ
伝承館

ICT

相乗効果で
広く・深く
伝承を推進



震災伝承調査 第1弾（来訪数調査）

1月実施→2月公開

震災伝承調査 第2弾（アンケート調査）

7-8月実施→速報8月公開→詳報9月公開→追加回答10月発表

震災伝承調査報告書 冊子 予定内容

11月発行予定内容

質疑応答

東日本大震災伝書活動調査 第2弾 目的

私たちが
目指す社会
の姿

災害で命が失われない社会、被災者や被災地域の
苦難を軽減し再生に向かうことのできる社会

社会全体の
防災力向上
に向けた
重点テーマ

- A. 学校に向けた震災伝承の推進
- B. 地域の多様な主体が共に防災を考える場づくり
- C. 関係省庁や自治体の防災施策による仕組みづくり

そのために
3.11被災地
の伝承主体
が取り組む
べきこと

- 1. 伝承主体・施設等の連携による相乗効果発揮（連携）
- 2. 効果的な伝承活動実現のための企画力の向上（企画）
- 3. 経験と教訓を伝え継ぐための次世代人材育成（育成）
- 4. 持続的な震災伝承活動(※1)を支える環境整備

災害から命が守れる社会の実現のために、
震災伝承の推進・継続を支える取組の一環
として2018年より毎年調査。
第1弾の来訪数調査（1月実施、2月公表）と
あわせ、現状と課題を冊子にして公開。

調査の目的

3.11の伝承活動実践者の立場から

- 1. 効果的な手法や事例、知見を共有し合う
- 2. 社会全体として目指すべき方向性を見いだす資料とする

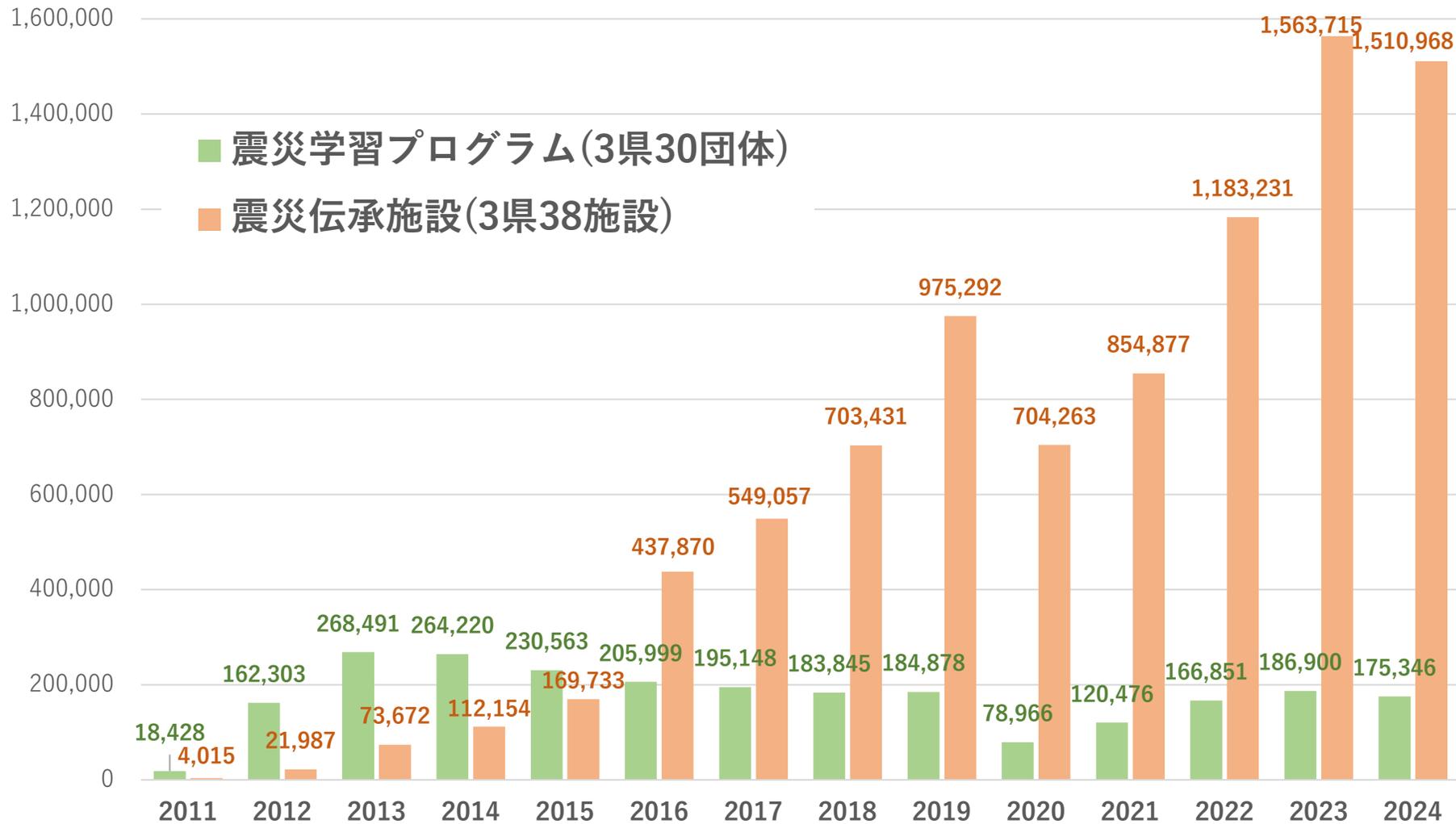
調査の目的

3.11の伝承活動実践者の立場から

- 1. 伝承活動の現場の取り組みの現状・問題点を明確にする
- 2. 目指す方向性、改善に向けたアイデアを出し合う

(※1)「[第2期復興・創生期間](#)」以降における東日本大震災からの復興基本方針の変更について（令和7年6月20日閣議決定）
「被災各地の追悼・祈念施設、震災遺構、伝承施設等の間で連携しつつ、東日本大震災の記憶と教訓を後世へ継承」
「令和8年度以降も東日本大震災の風化防止と教訓の継承の取組は継続する必要がある」とあり、国、地方公共団体、民間がそれぞれの役割を果たしながら連携して進める」とする一方、地震・津波被災地域で「心の復興」事業の継続や、震災伝承活動を直接支える制度や施策についての記載はない

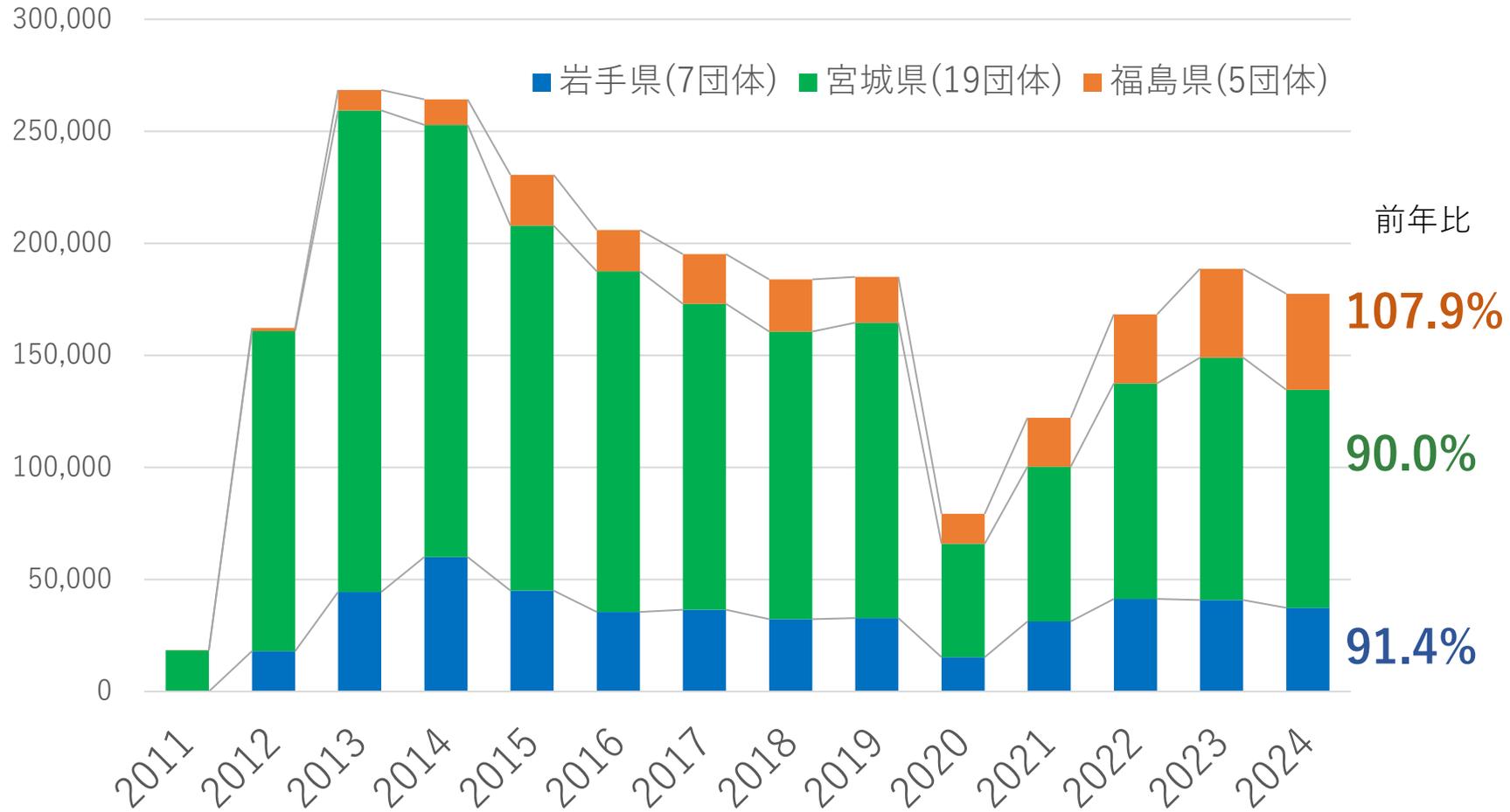
岩手,宮城,福島の震災伝承団体・施設の来訪数推移



2024年より
減少に転化

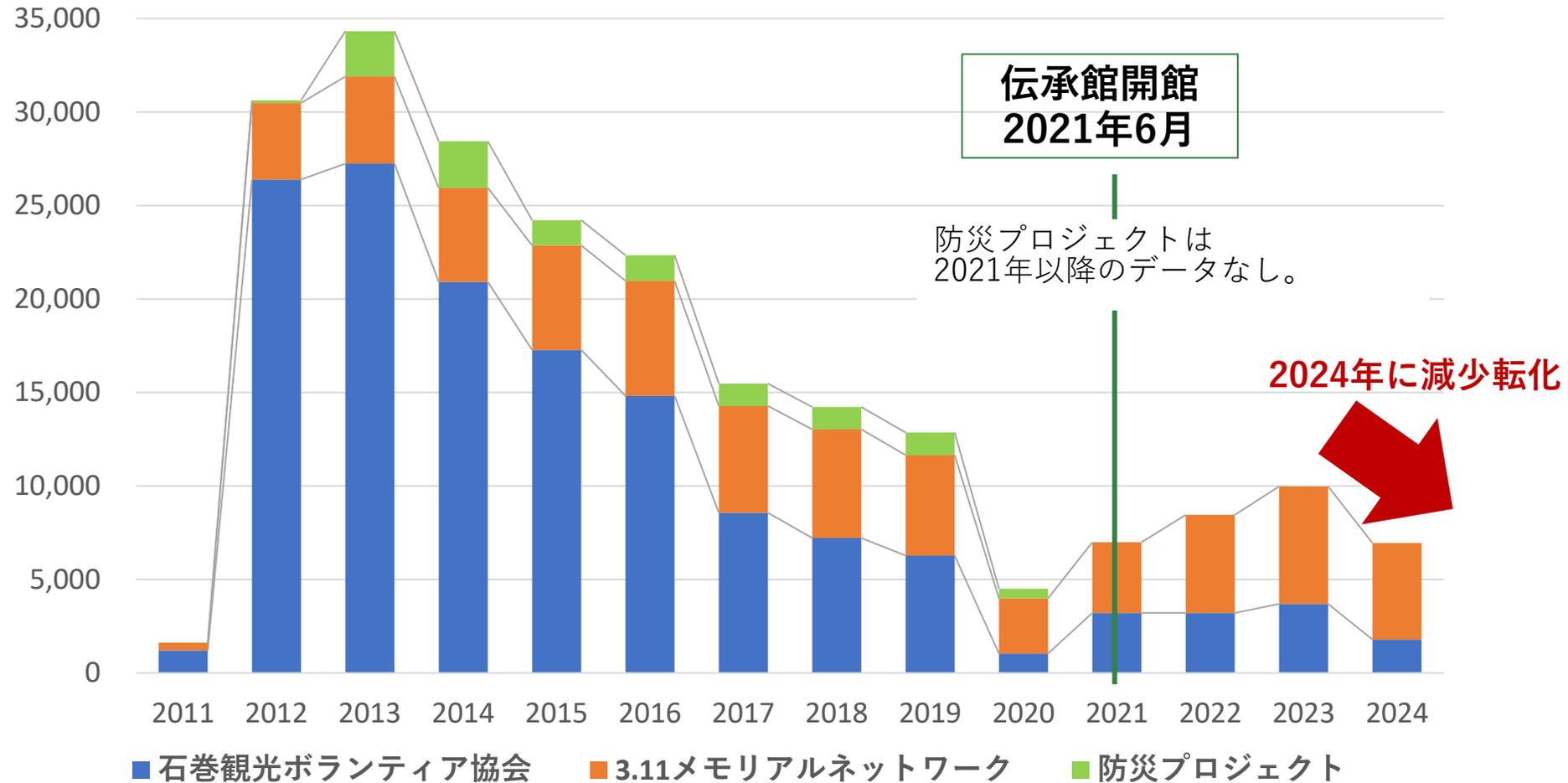
県別推移（プログラム） 岩手・宮城の減少

県別 震災学習プログラム 年別受入人数推移



「来訪数減少」の一例（祈念公園周辺での活動3団体）

伝承活動3団体ともに、開園前よりも受入数減少

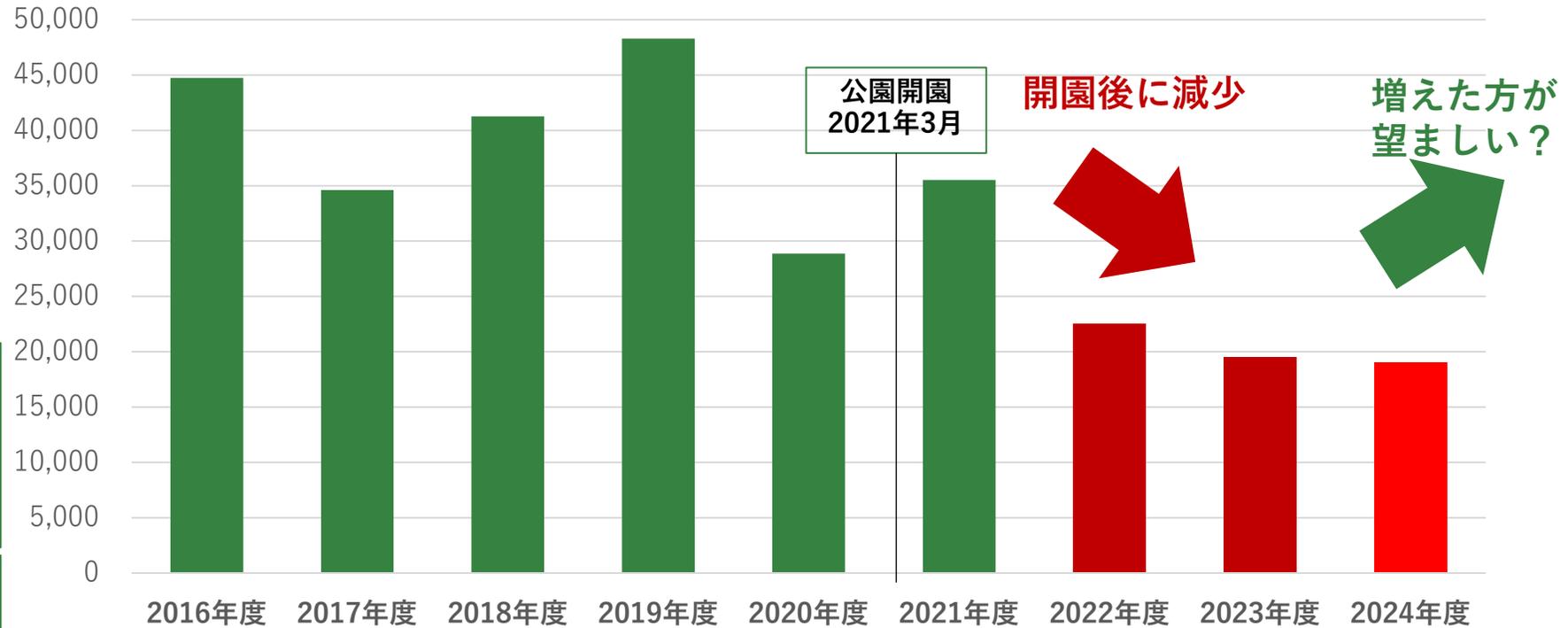


「来訪数減少」の一例（「がんばろう！石巻」看板前）



「がんばろう！石巻」へ
開園前から多くのバスが来訪

南浜復興祈念公園市民活動拠点 訪問者数



祈念公園開園後
毎年減少

「ライバルは無料の伝承館だった」
受入実績激減の団体も

➡ 「13年やってきたんだから続けてください」は可能？

「来訪数減少」の一例（「がんばろう！石巻」看板前）



伝承施設間をつなぎ、
語り部・ガイドが
複数バスの修学旅行を
「面」として受け入れ

震災伝承調査 第1弾（来訪数調査）

1月実施→2月公開

震災伝承調査 第2弾（アンケート調査）

7-8月実施→速報8月公開→詳報9月公開→追加回答10月発表

震災伝承調査報告書 冊子

11月発行予定内容

質疑応答

東日本大震災伝書活動調査 第2弾 目的

私たちが
目指す社会
の姿

災害で命が失われない社会、被災者や被災地域の
苦難を軽減し再生に向かうことのできる社会

社会全体の
防災力向上
に向けた
重点テーマ

- A. 学校に向けた震災伝承の推進
- B. 地域の多様な主体が共に防災を考える場づくり
- C. 関係省庁や自治体の防災施策による仕組みづくり

そのために
3.11被災地
の伝承主体
が取り組む
べきこと

- 1. 伝承主体・施設等の連携による相乗効果発揮（連携）
- 2. 効果的な伝承活動実現のための企画力の向上（企画）
- 3. 経験と教訓を伝え継ぐための次世代人材育成（育成）
- 4. 持続的な震災伝承活動(※1)を支える環境整備

災害から命が守れる社会の実現のために、
震災伝承の推進・継続を支える取組の一環
として2018年より毎年調査。
第1弾の来訪数調査（1月実施、2月公表）と
あわせ、現状と課題を冊子にして公開。

調査の目的

3.11の伝承活動実践者の立場から

- 1. 効果的な手法や事例、知見を共有し合う
- 2. 社会全体として目指すべき方向性を見いだす資料とする

調査の目的

3.11の伝承活動実践者の立場から

- 1. 伝承活動の現場の取り組みの現状・問題点を明確にする
- 2. 目指す方向性、改善に向けたアイデアを出し合う

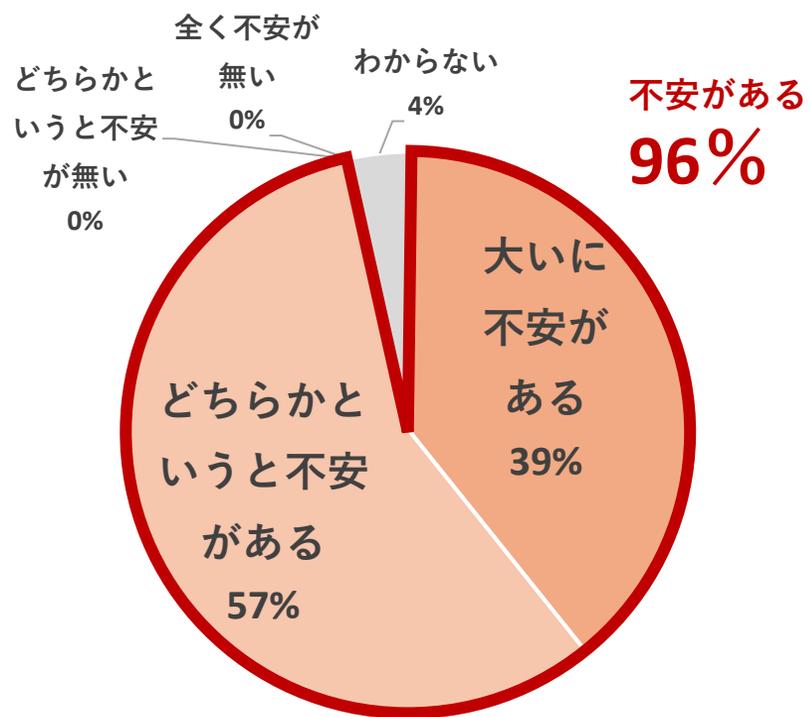
(※1)「[第2期復興・創生期間](#)」以降における東日本大震災からの復興基本方針の変更について（令和7年6月20日閣議決定）
「被災各地の追悼・祈念施設、震災遺構、伝承施設等の間で連携しつつ、東日本大震災の記憶と教訓を後世へ継承」
「令和8年度以降も東日本大震災の風化防止と教訓の継承の取組は継続する必要がある」とあり、国、地方公共団体、民間がそれぞれの役割を果たしながら連携して進める」とする一方、地震・津波被災地域で「心の復興」事業の継続や、震災伝承活動を直接支える制度や施策についての記載はない

東日本大震災伝書活動調査 第2弾 協力団体

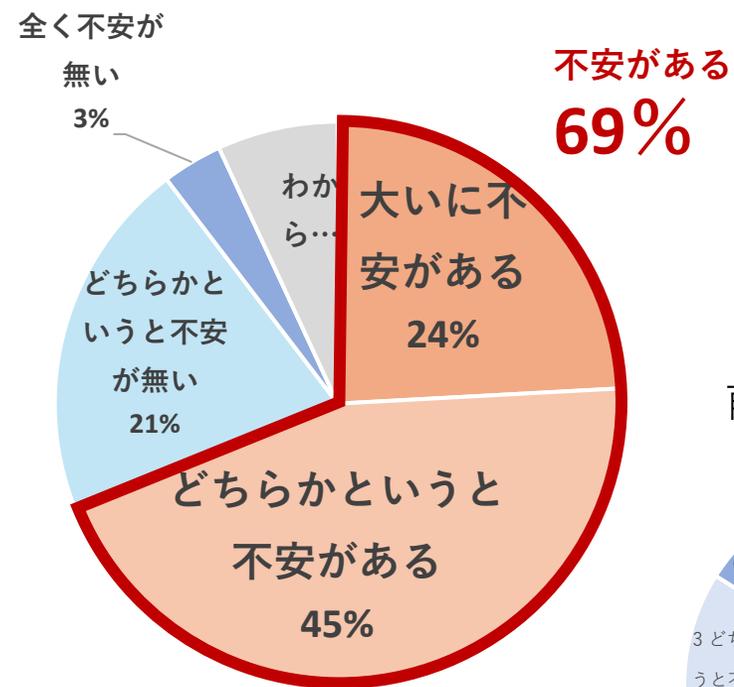
プログラム		28団体	施設	29施設
プログラム	宮城県 雄勝花物語	2025/7/24	施設	宮城県 南三陸311メモリアル 2025/7/24
プログラム	宮城県 やまもと語りべの会	2025/7/26	施設	岩手県 いのちをつなぐみらい館 2025/7/26
プログラム	宮城県 七郷語り継ぎボランティア 未来へ - 郷浜	2025/7/30	施設	岩手県 大船渡市防災学習館 2025/7/29
プログラム	宮城県 気仙沼市観光協会	2025/7/31	施設	宮城県 名取市震災復興伝承館 2025/7/31
プログラム	岩手県 吉里吉里国	2025/8/1	施設	福島県 東京電力廃炉資料館 2025/7/31
プログラム	宮城県 ふらむ名取	2025/8/2	施設	宮城県 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 2025/8/2
プログラム	宮城県 SAY'S東松島	2025/8/2	施設	岩手県 東日本大震災津波伝承館 2025/8/2
プログラム	岩手県 おらが大槌夢広場	2025/8/2	施設	福島県 東日本大震災・原子力災害伝承館 2025/8/2
プログラム	宮城県 健太いのちの教室	2025/8/2	施設	宮城県 東松島市復興伝承館 2025/8/2
プログラム	宮城県 震災語り部の会 ワッター	2025/8/2	施設	福島県 いわき震災伝承みらい館 2025/8/2
プログラム	岩手県 三陸鉄道	2025/8/2	施設	福島県 福島県環境創造センター 2025/8/2
プログラム	宮城県 階上地域まちづくり振興協議会	2025/8/2		せんだい3.11メモリアル交流館、震災遺構
プログラム+施設	宮城県 津波復興祈念資料館 閉上の記憶	2025/8/3	施設	宮城県 仙台市立荒浜小学校 2025/8/2
プログラム	宮城県 三陸復興観光コンシェルジュセンター	2025/8/3	施設	岩手県 大槌伝承の館 2025/8/2
プログラム	岩手県 宮古観光文化交流協会 学ぶ防災	2025/8/3	施設	宮城県 女川町まちなか交流館 2025/8/2
プログラム	宮城県 南三陸ホテル観洋	2025/8/4	施設	宮城県 みやぎ東日本大震災津波伝承館 2025/8/2
プログラム	宮城県 石巻観光ボランティア協会	2025/8/7	施設	宮城県 リアス・アーク美術館 2025/8/2
プログラム	宮城県 女川町観光協会	2025/8/8	プログラム+施設	宮城県 津波復興祈念資料館 閉上の記憶 2025/8/3
プログラム	岩手県 かまいしDMC	2025/8/8	施設	宮城県 山元町震災遺構中浜小学校 2025/8/6
プログラム	福島県 ふくしまリアリ	2025/8/8	施設	福島県 とみおかアーカイブ・ミュージアム 2025/8/6
プログラム	福島県 大熊未来塾	2025/8/8	施設	宮城県 岩沼市千年希望の丘交流センター 2025/8/7
プログラム	宮城県 大川伝承の会	2025/8/9	施設	宮城県 石巻NEWSè 2025/8/8
プログラム	福島県 いわき語り部の会	2025/8/9	施設	岩手県 大槌町文化交流センター 2025/8/8
プログラム	宮城県 3.11メモリアルネットワーク	2025/8/10	施設	岩手県 陸前高田市立博物館 2025/8/8
プログラム	宮城県 いわぬま震災語り部の会	2025/8/10	施設	宮城県 石巻市震災遺構門脇小学校、大川小学校 2025/8/8
プログラム	福島県 富岡町3・11を語る会	2025/8/19	施設	宮城県 MEET門脇、南浜つなぐ館 2025/8/9
プログラム	岩手県 陸前高田市観光物産協会	2025/8/20	施設	福島県 原子力災害考証館 2025/8/10
プログラム	岩手県 三陸ひとつなぎ自然学校	2025/8/22	施設	宮城県 山元町防災拠点・山下地域交流センター 2025/8/12
			施設	岩手県 3.11仮設住宅体験館 2025/10/3
			施設	岩手県 宮古市災害資料伝承館 2025/10/5

伝承の担い手が抱える「継続の不安」

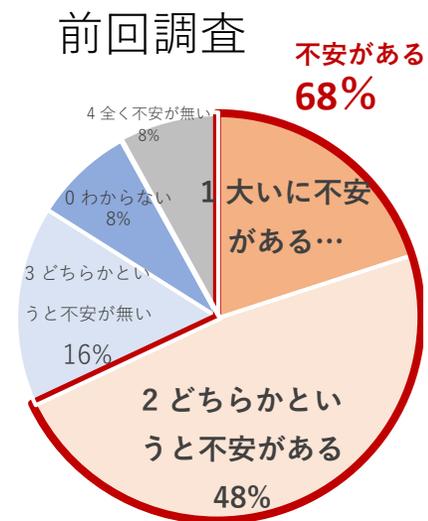
今後、伝承活動を継続する上で不安を感じているか



震災学習プログラム実施団体

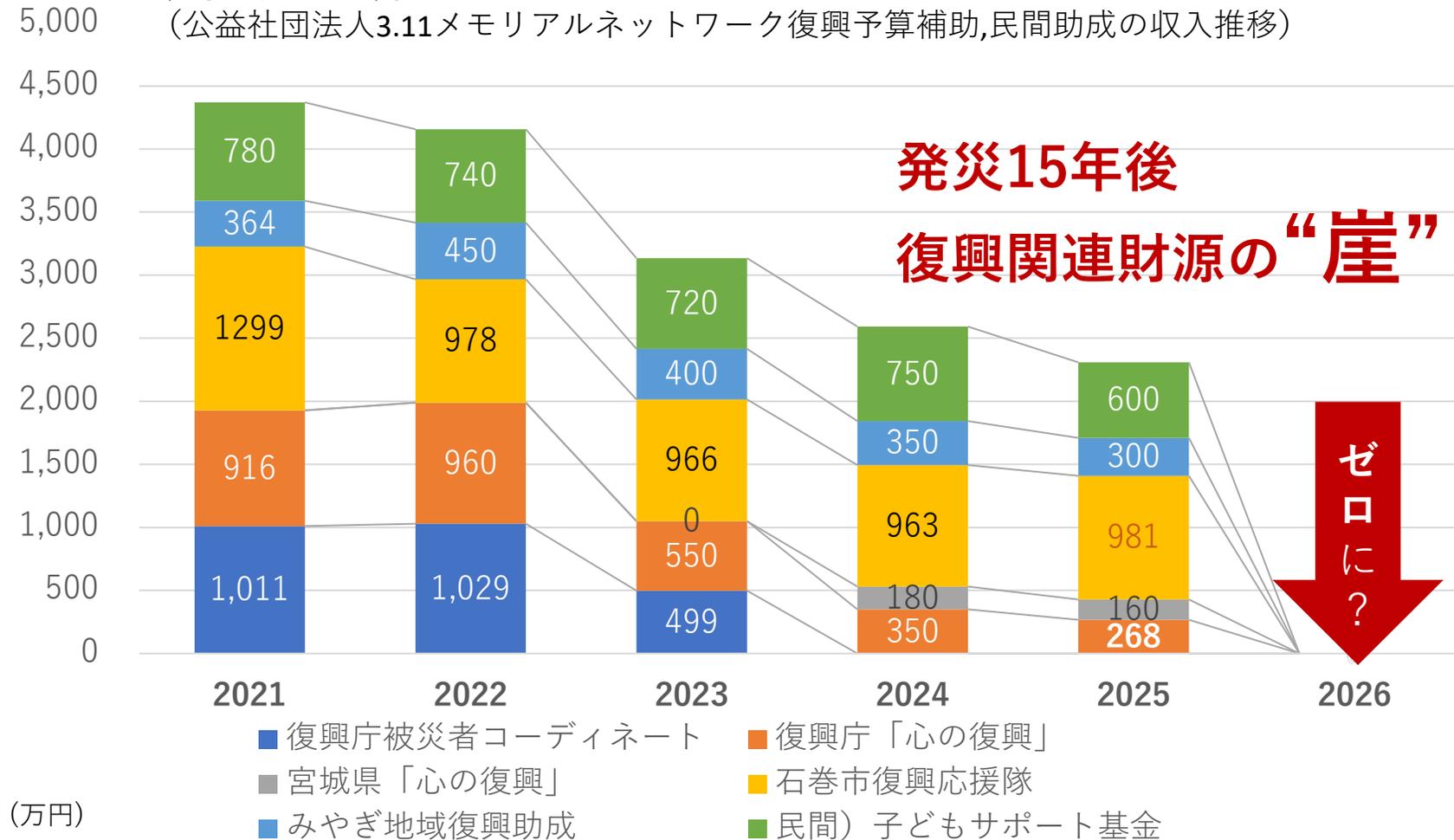


震災伝承施設運営組織



災害伝承の“崖” 発災15年での復興事業完了

“伝承の崖”の一例
 (公益社団法人3.11メモリアルネットワーク復興予算補助,民間助成の収入推移)



災害伝承の“崖” 様々な形での危機の現れ

(岩手) 来訪数の**激減**



来訪数
2014年11,498名

↓
2024年 160名

98.6%減

(宮城) 民間団体の**解散**



WEBサイトより引用

(宮城) 語り手の**逝去**



「震災で命を失って
しまった人たちの
代わりに
伝え続けなければ」

・ ・ 続けられず

(福島) 民間施設の**閉館**



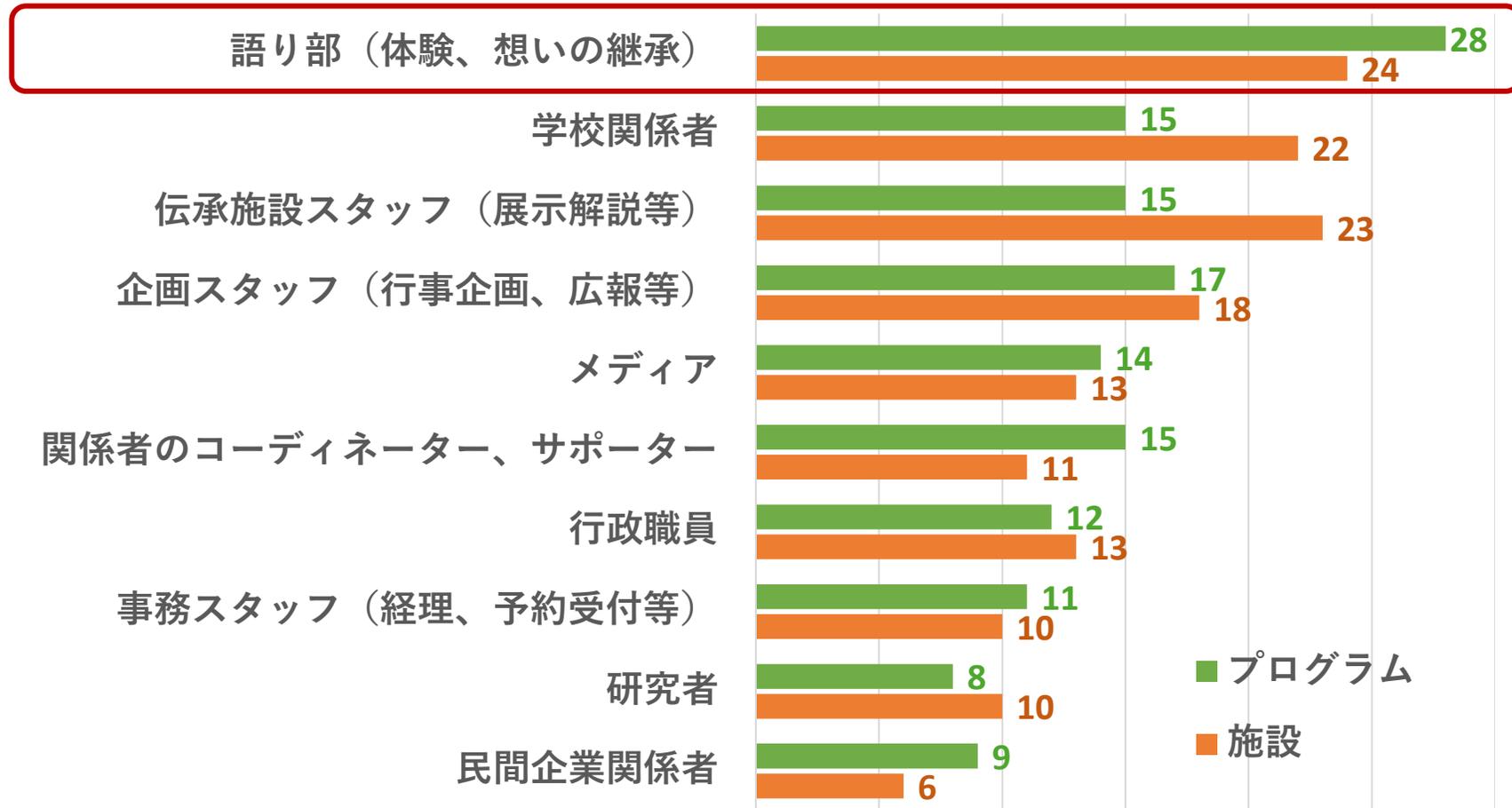
ふたばいんふお閉館のお知らせ

【お世話になった皆様へ】
この度、ふたばいんふおは2024年3月いっばいを持ちまして閉館させていただきます。
これまでのご愛顧、誠にありがとうございました。
ふたばいんふおは閉館しますが、今後も双葉郡を温かく見守っていただければ幸いです。

WEBサイトより引用

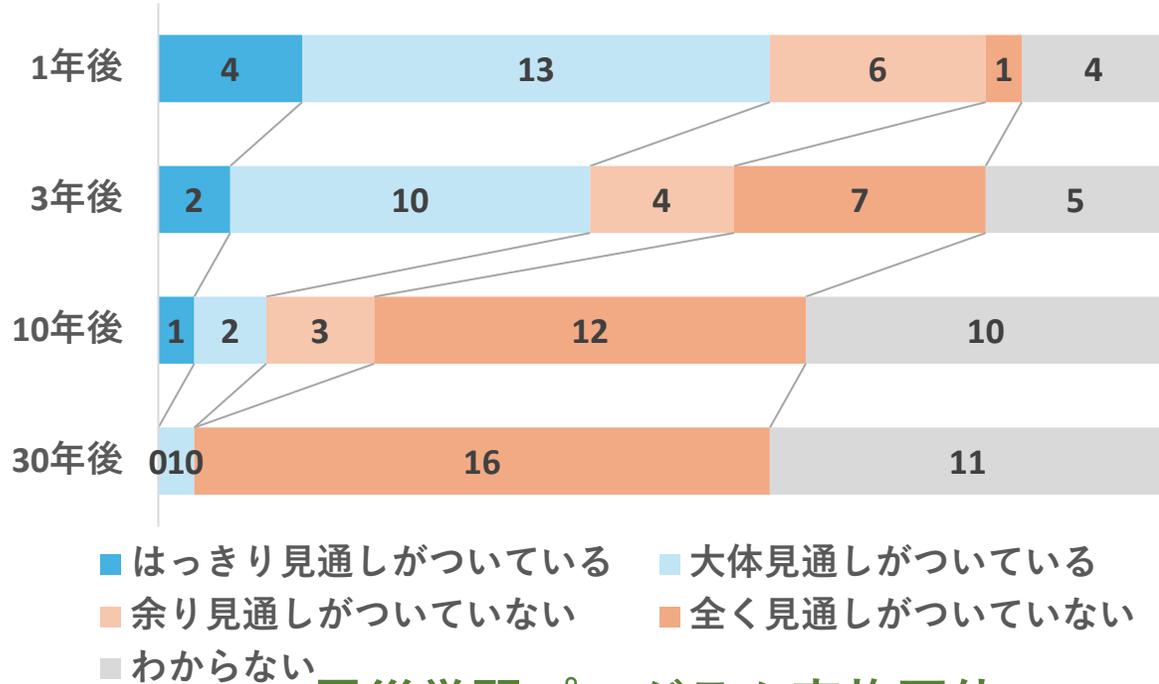
伝承継続のために、特に重要な人材

後世への伝承活動継続のために、特に重要だと思う人材

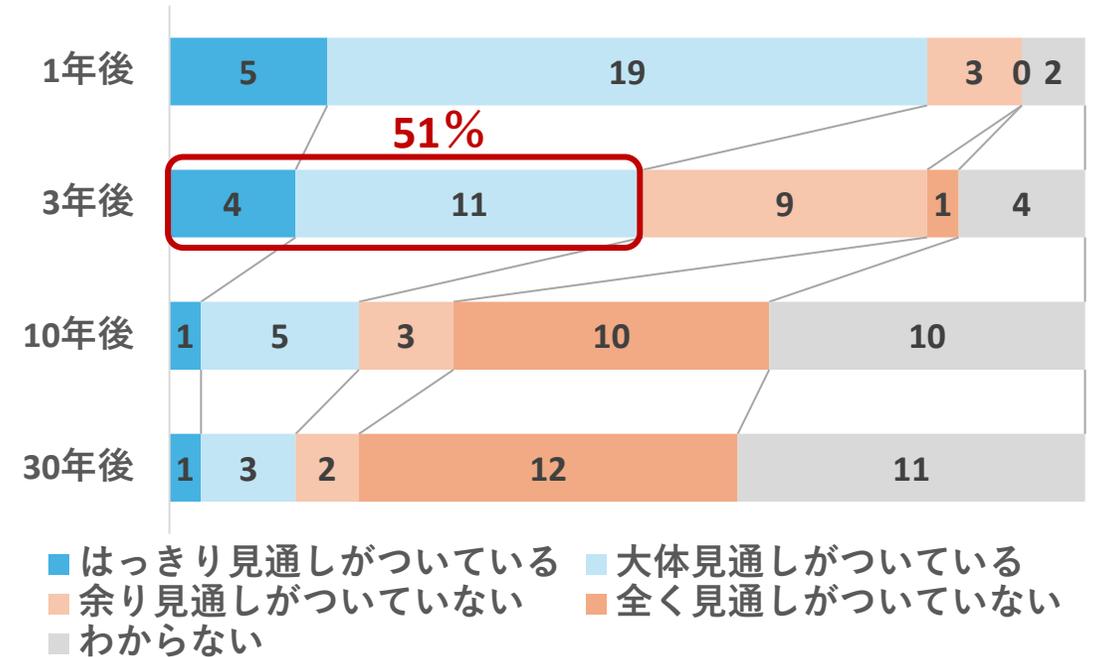


2026年度以降の活動資金の見通し

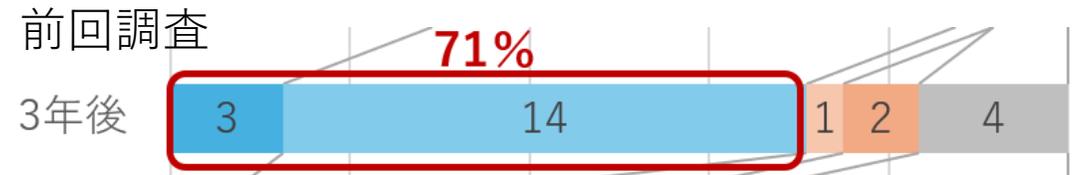
2026年度以降の組織・施設運営および活動資金の見通し



震災学習プログラム実施団体

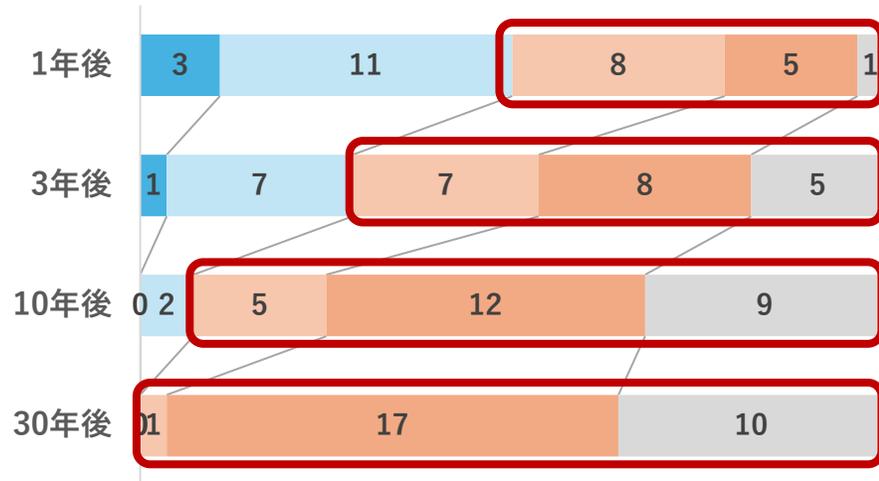


震災伝承施設運営組織



2026年度以降の人材確保の見通し

2026年度以降の**伝承人材確保**の見通し

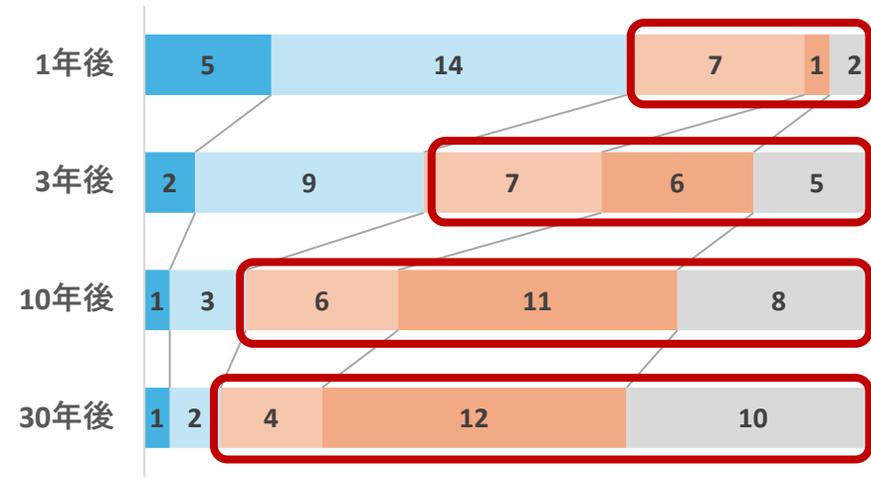


- はっきり見通しがついている
- 大体見通しがついている
- 余り見通しがついていない
- 全く見通しがついていない
- わからない

震災学習プログラム実施団体

30年後の人材見通しがある

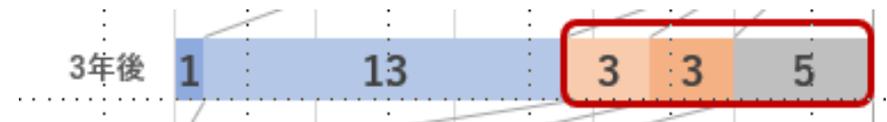
伝承団体は **ゼロ**



- はっきり見通しがついている
- 大体見通しがついている
- 余り見通しがついていない
- 全く見通しがついていない
- わからない

62%

震災伝承施設運営組織

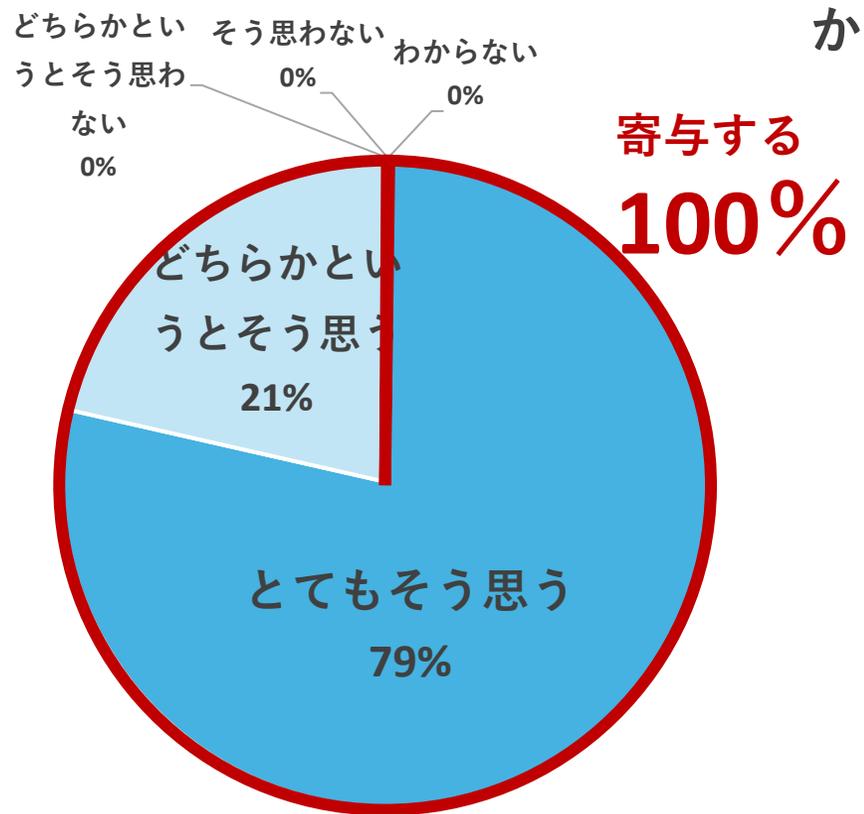


44%

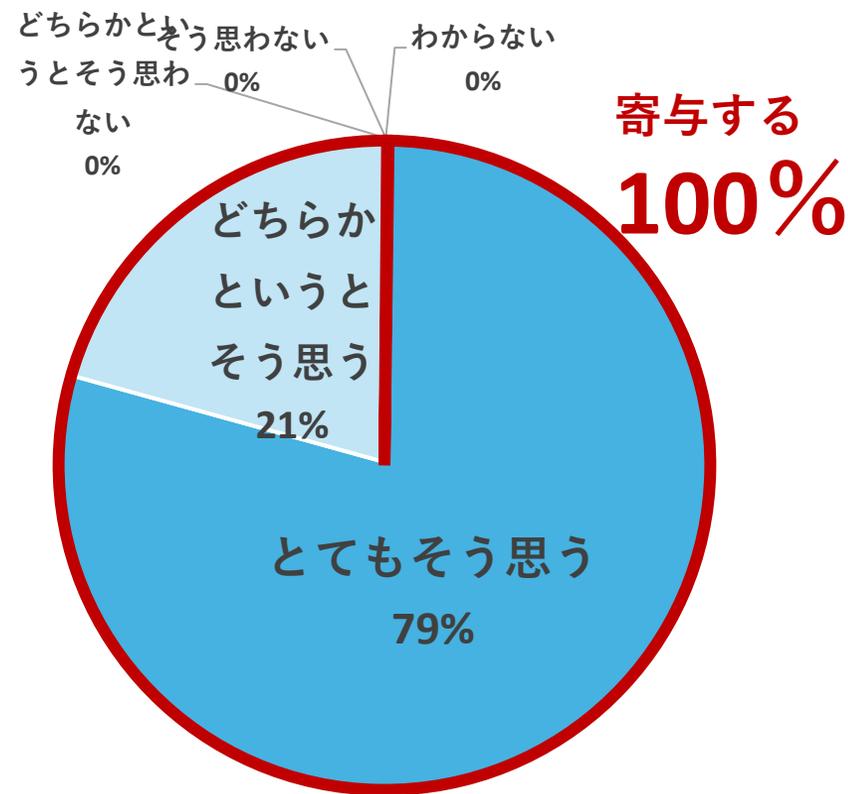
前回調査では 3年後44%だったのに・・・

来訪者の意識行動変化への寄与（語り部）

来訪者の意識や行動を変えるのに東日本大震災の語り部は寄与する



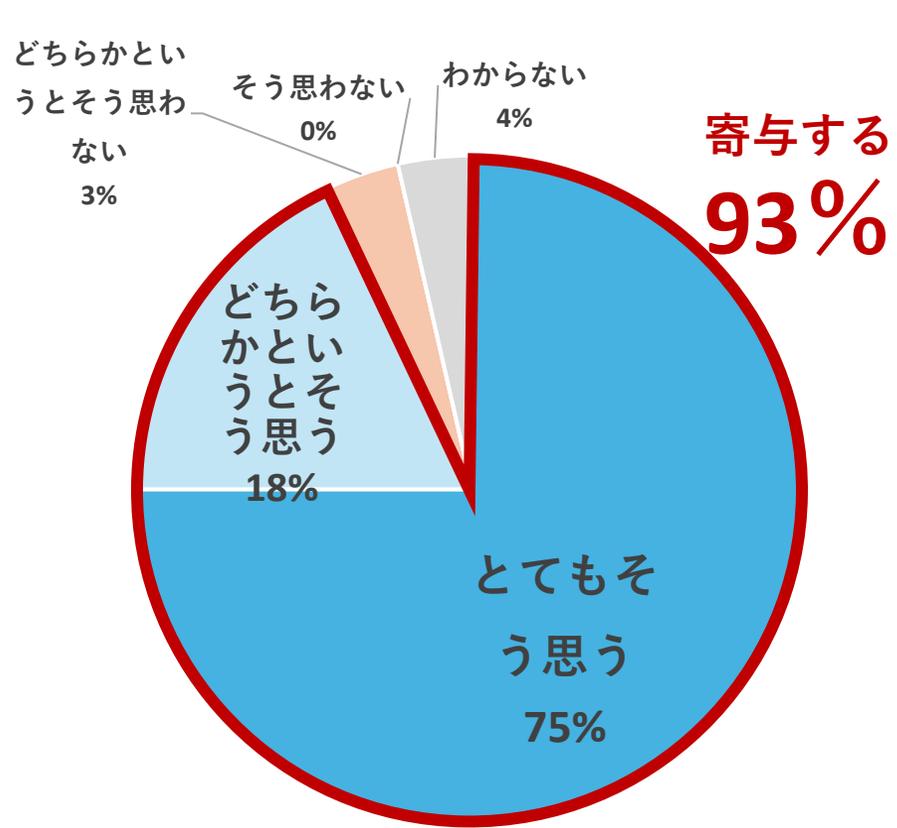
震災学習プログラム実施団体



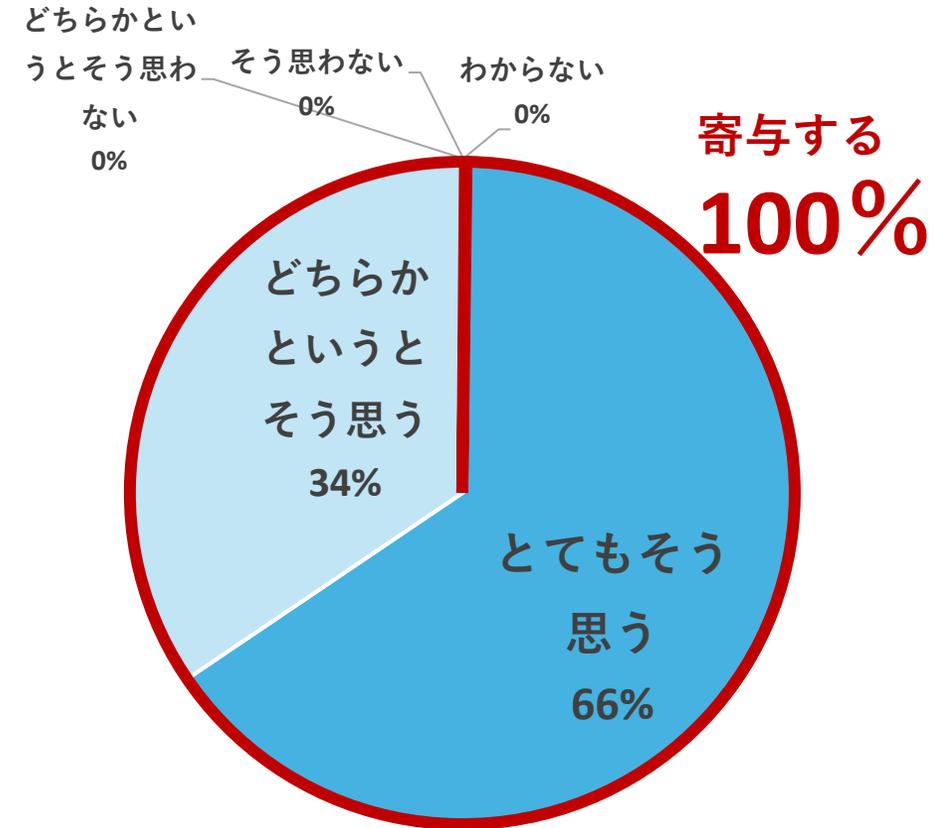
震災伝承施設運営組織

来訪者の意識行動変化への寄与（伝承施設）

来訪者の意識や行動を変えるのに東日本大震災**伝承施設**は寄与するか



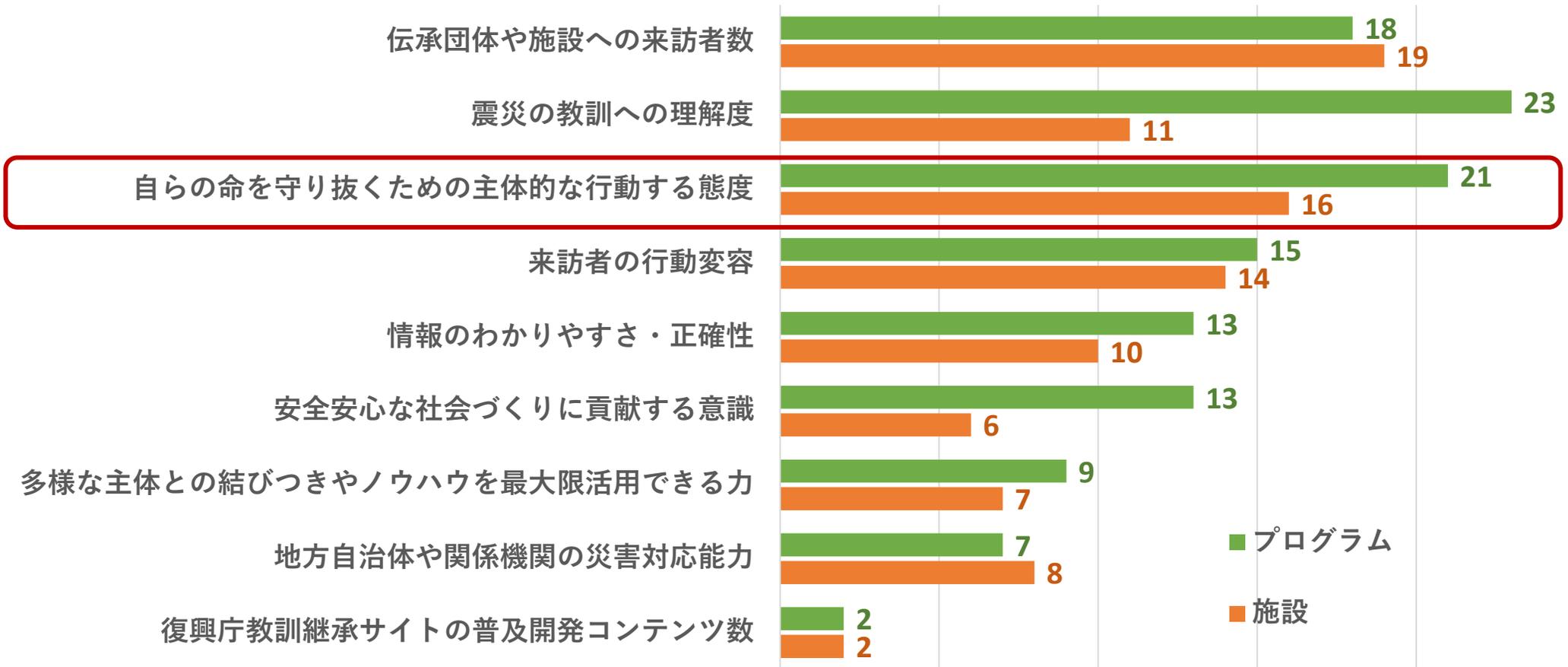
震災学習プログラム実施団体



震災伝承施設運営組織

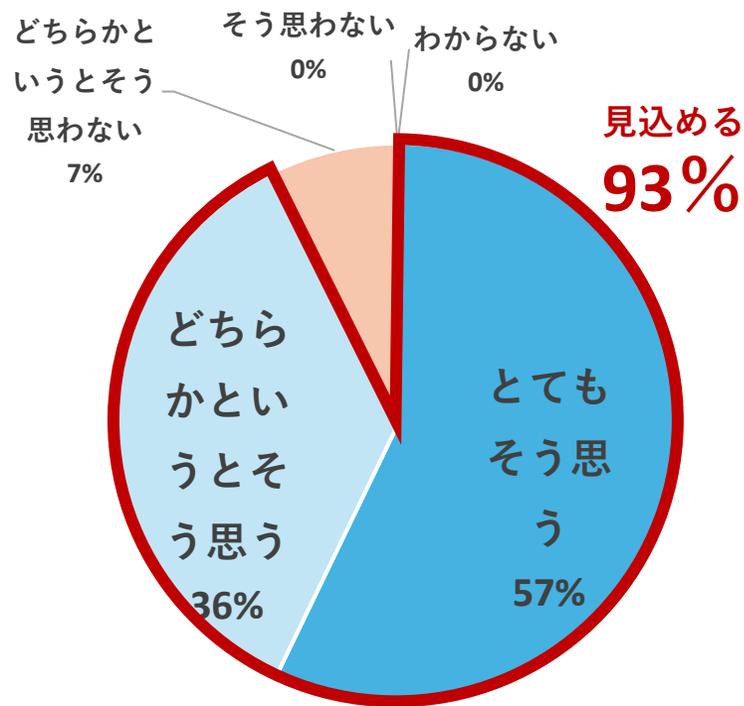
伝承の「成果」を測るにふさわしい指標

震災伝承の「成果」を測るのにふさわしい指標

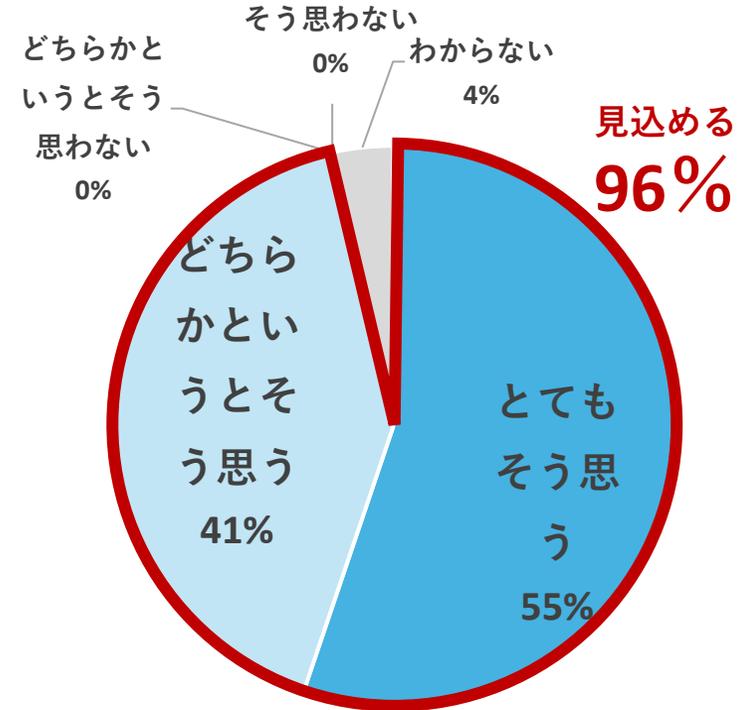


連携強化による来訪者への質の高い体験提供

他伝承主体との連携強化で来訪者への質の高い体験提供を見込めるか



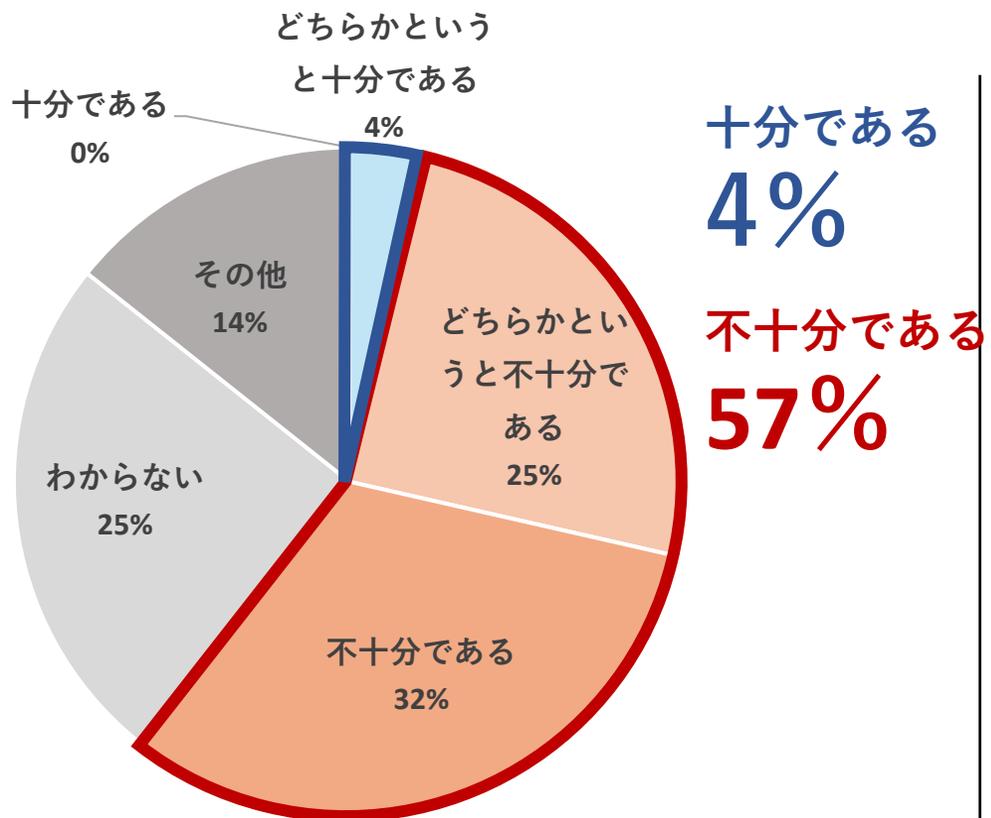
震災学習プログラム実施団体



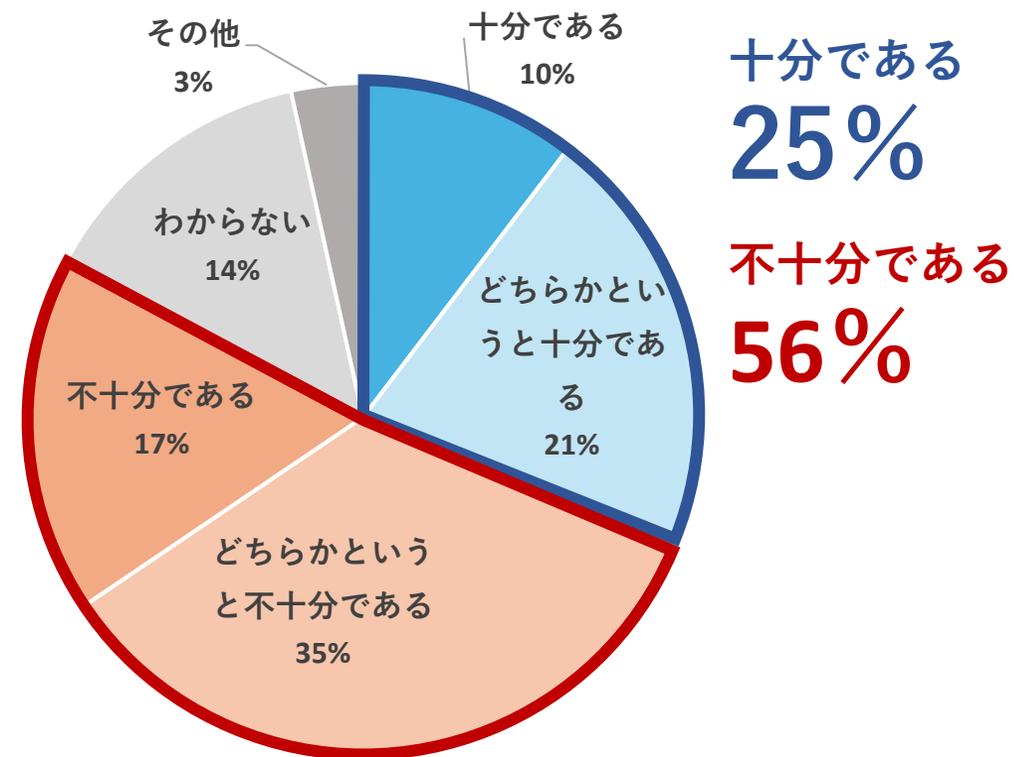
震災伝承施設運営組織

資金支援の状況

震災伝承継続に関する公的な資金支援の状況



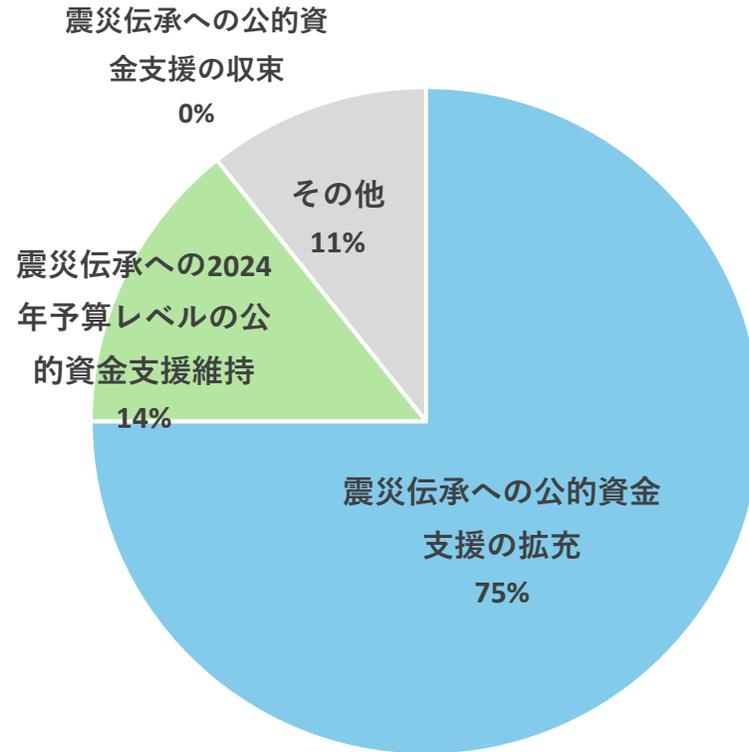
震災学習プログラム実施団体



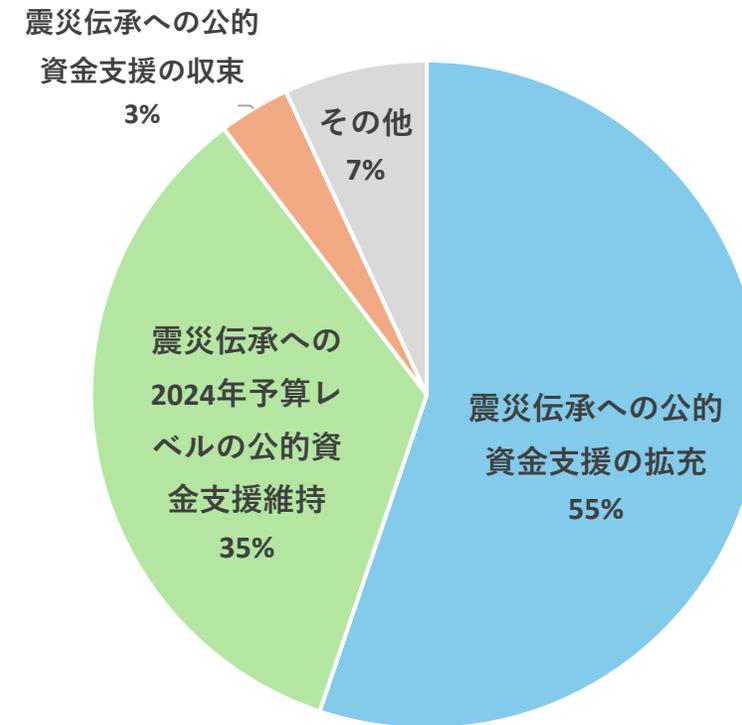
震災伝承施設運営組織

「第2期復興・創生期間」後の公的資金支援への期待

「第2期復興・創生期間」後の震災伝承への公的な資金支援への期待



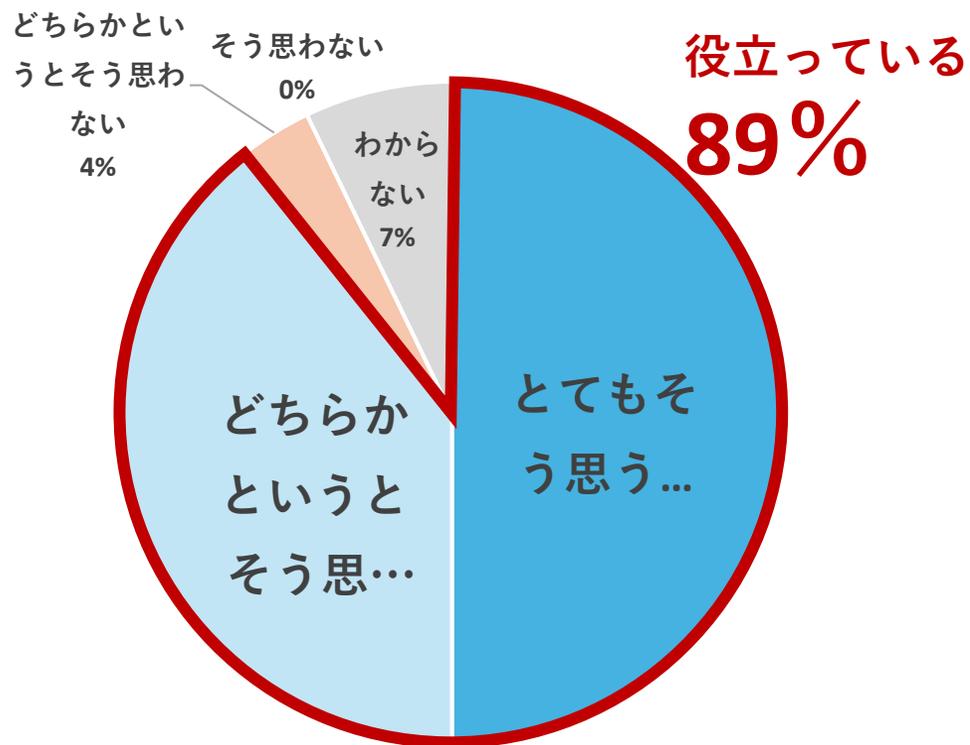
震災学習プログラム実施団体



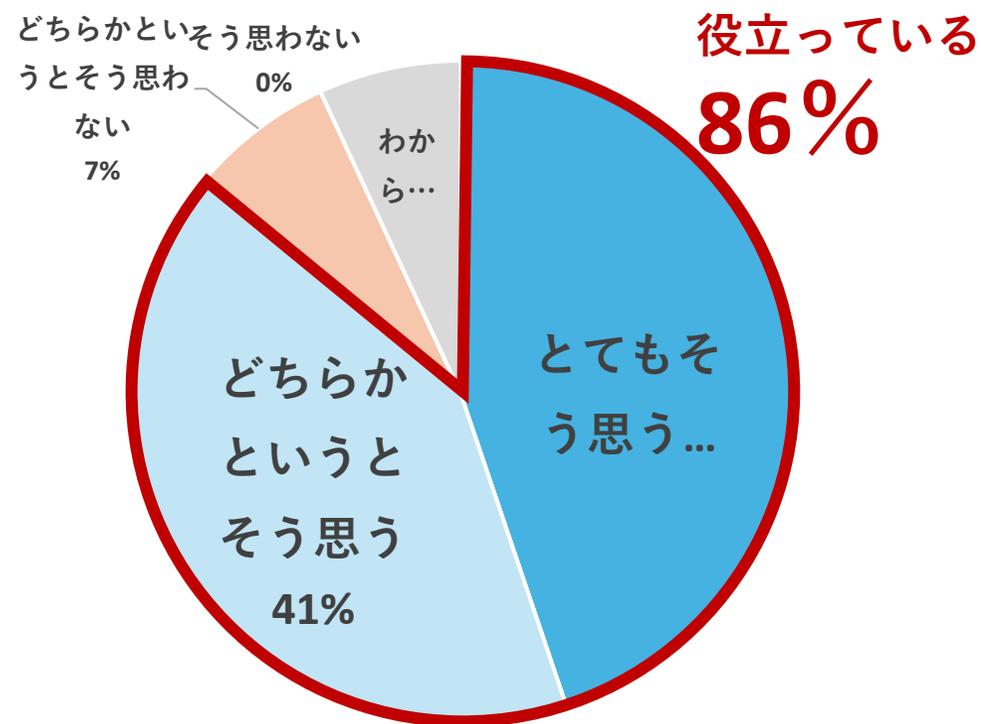
震災伝承施設運営組織

全国の学校の事前防災に役立つか

東北での震災学習は、全国の学校現場で事前防災に役立っているか



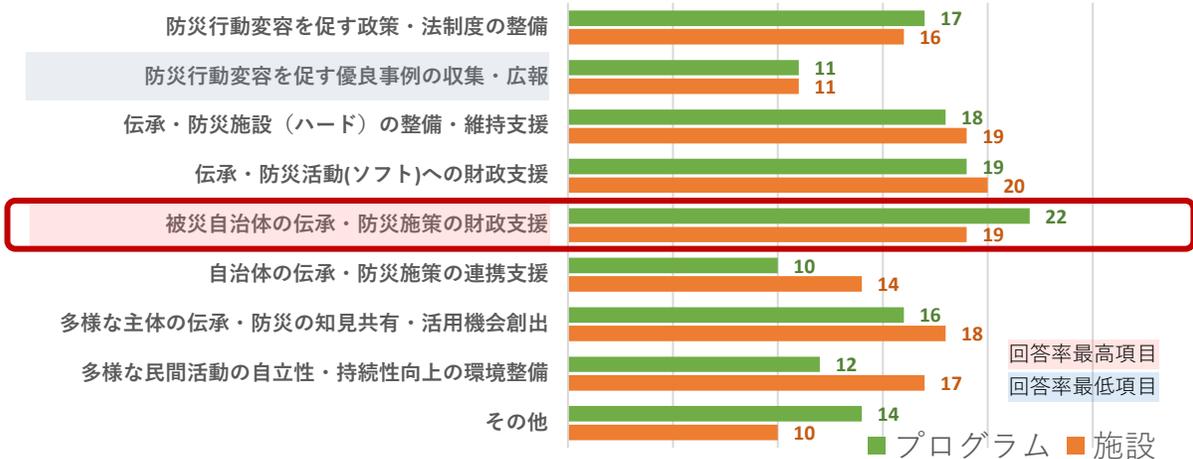
震災学習プログラム実施団体



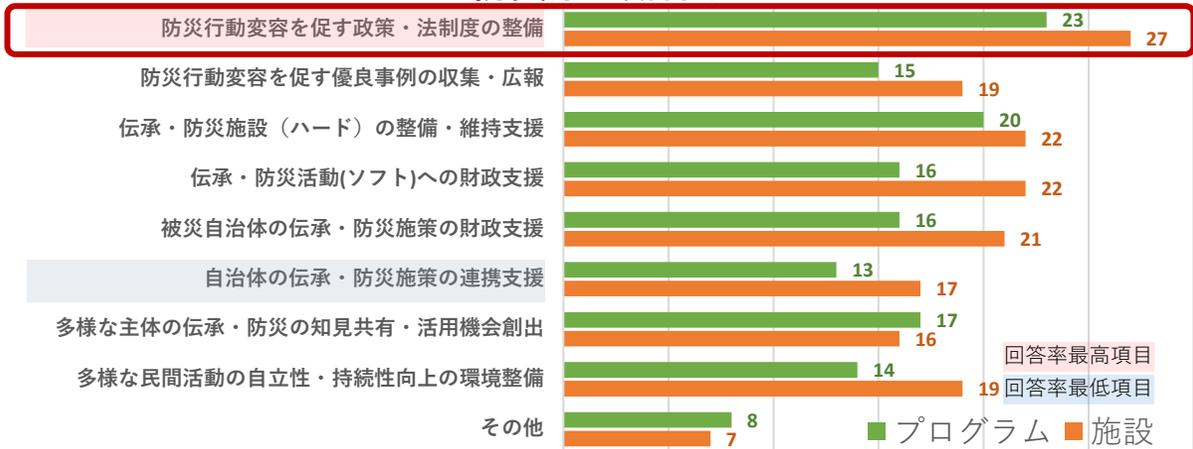
震災伝承施設運営組織

「第2期復興・創生期間」後の公的資金支援への期待

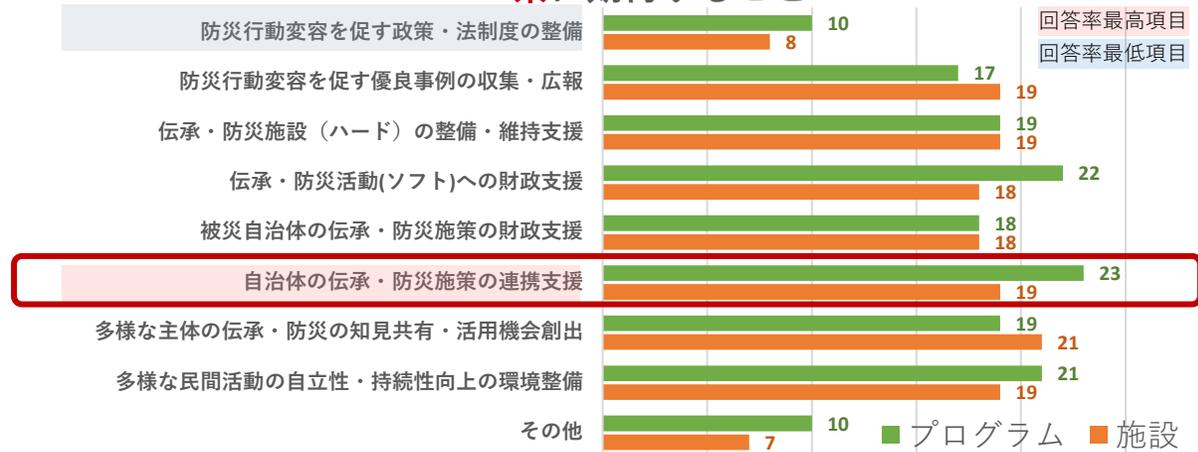
復興庁に期待すること



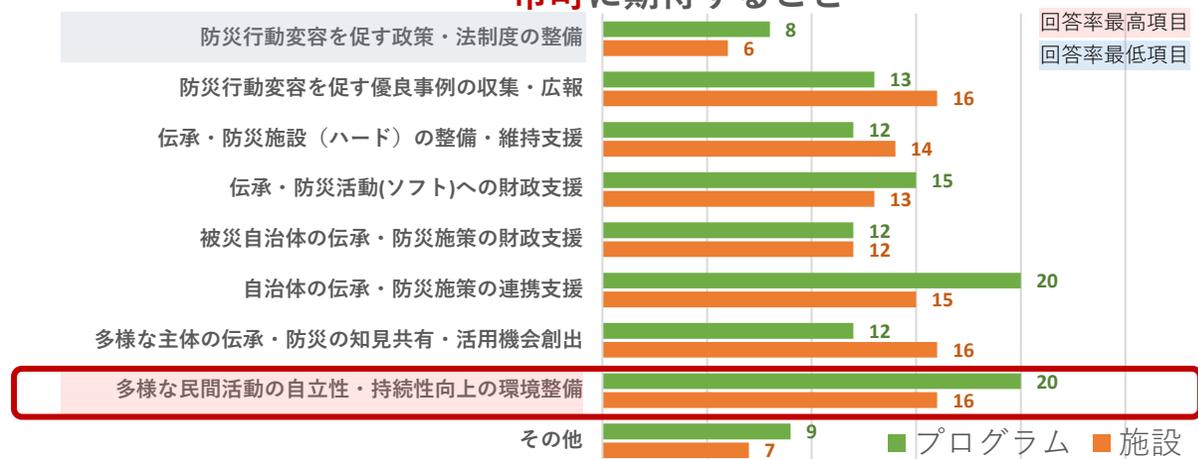
防災庁に期待すること



県に期待すること

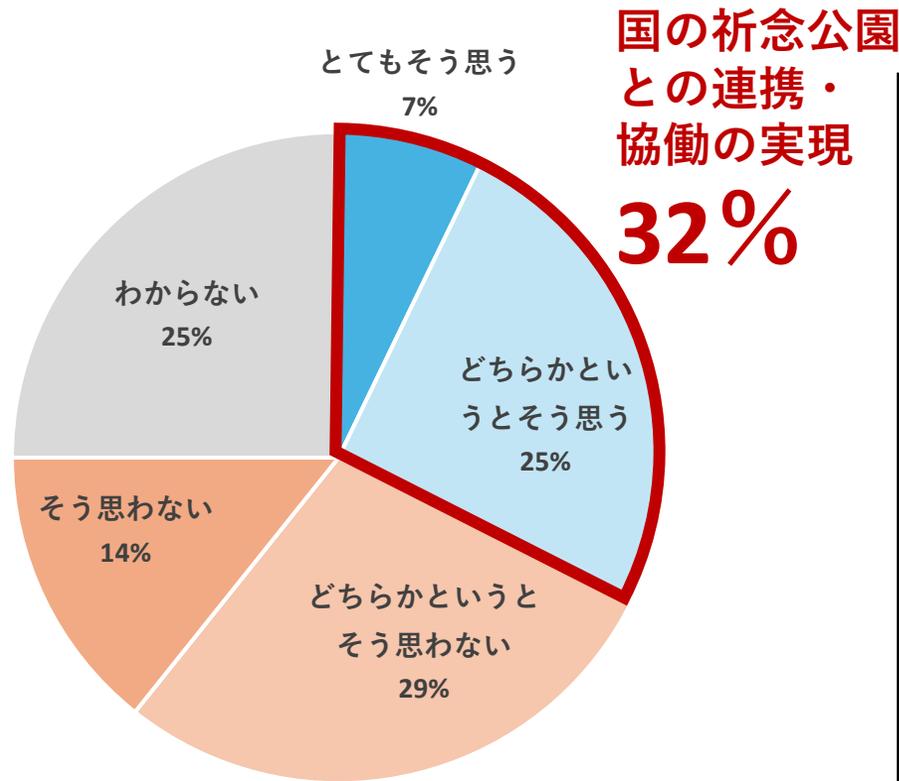


市町に期待すること

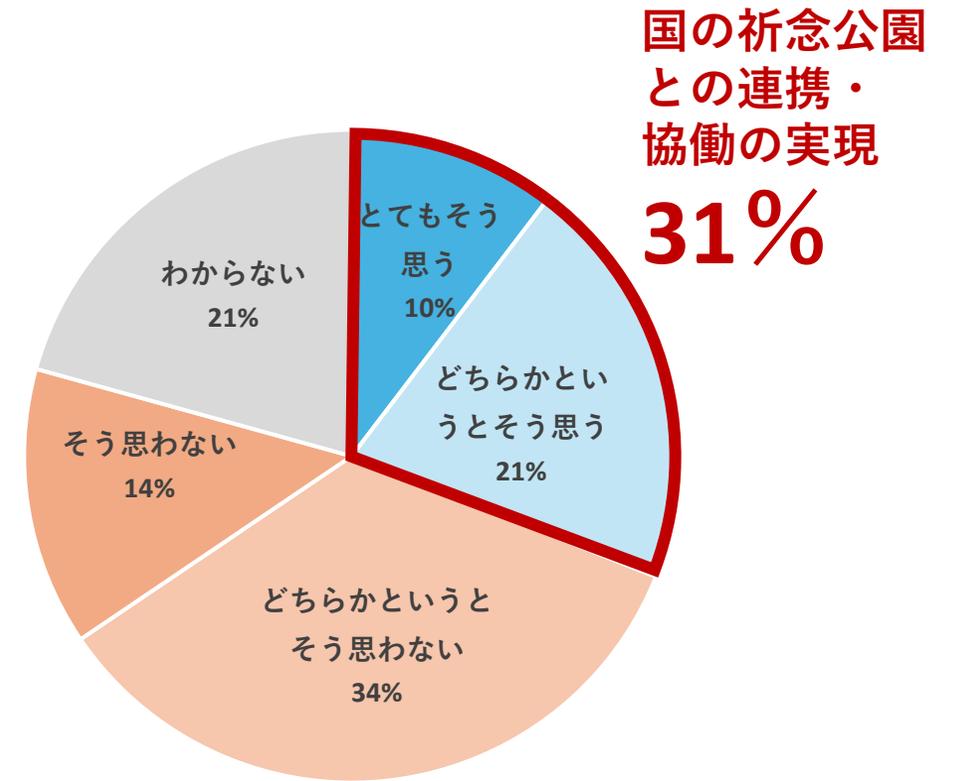


「第2期復興・創生期間」後の公的資金支援への期待

国が関わる復興祈念公園と自組織との連携・協働が実現できているか



震災学習プログラム実施団体



震災伝承施設運営組織

<宮城県内の伝承施設より>

正直**単体の施設の努力ではどうにもできない状況**なのかなって感じています。

伝承施設全体で、市全体で、**県全体で、**
東北全体で取り組まなければ
どんどん人は離れてしまいそうな不安があります。

調査にご協力いただきましたすべての団体・施設の皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。東日本大震災の発災からまもなく15年をむかえ、**復興・創生期間が終結に向かうという重要な節目**にあって、震災伝承活動が直面する現状と課題が整理されました。

団体様の96%が「継続する上での不安」を抱えており、**この割合は、コロナ禍の時期や2023年調査よりもさらに高まっている**という点に着目しなければなりません。コロナ禍では、東北”地方”にある震災学習に全国から関心が高まり、思ったよりも利用が減らなかったり、逆に利用が増えた事例がありました。しかし、コロナ禍が明けて、徐々に人流動態がそれ以前の状態に戻り、東北地方の震災学習から、**やや足が遠のいている実態が前記の「不安」を生んでいるようにもみられます**。そのためにも、震災学習の**魅力や効果を高め合って、より選ばれる場所・プログラムにしていくことが重要**です。

さらに、いつか地域に災害が起きてしまうかもしれないことをふまえれば、地域に根ざした震災学習を定着化していく必要があります。そのためにも、**小中高大という教育の課程に震災学習が盛り込まれることが重要**になります。学校教育のなかに震災学習が取り込まれるような、本調査でも多く声が上がっているように、**バス移動やコーディネートの支援のより一層の充実化**が求められます。

震災伝承調査 第1弾（来訪数調査）

1月実施→2月公開

震災伝承調査 第2弾（アンケート調査）

7-8月実施→速報8月公開→詳報9月公開→追加回答10月発表

震災伝承調査報告書 冊子

11月発行予定

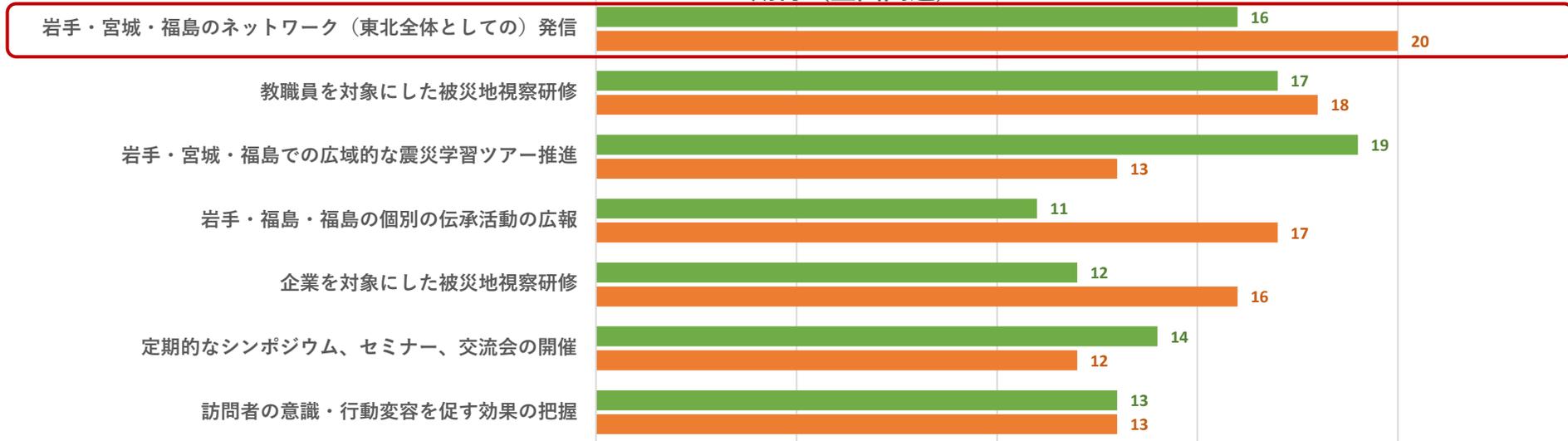
質疑応答

3.11メモリアルネットワークへの期待

311MNへの期待（連携関連）



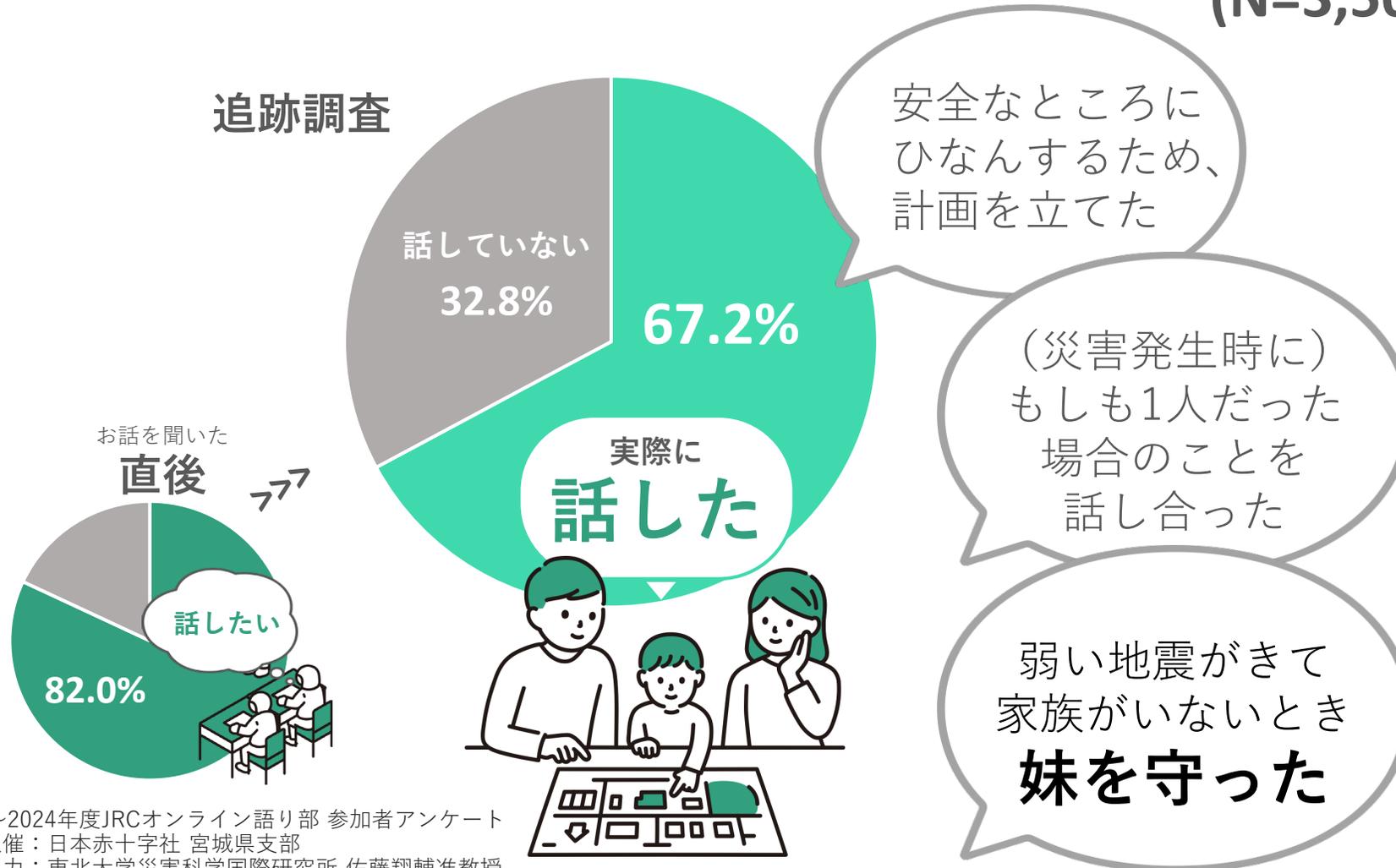
311MNへの期待（企画関連）



311MNへの期待（育成関連）



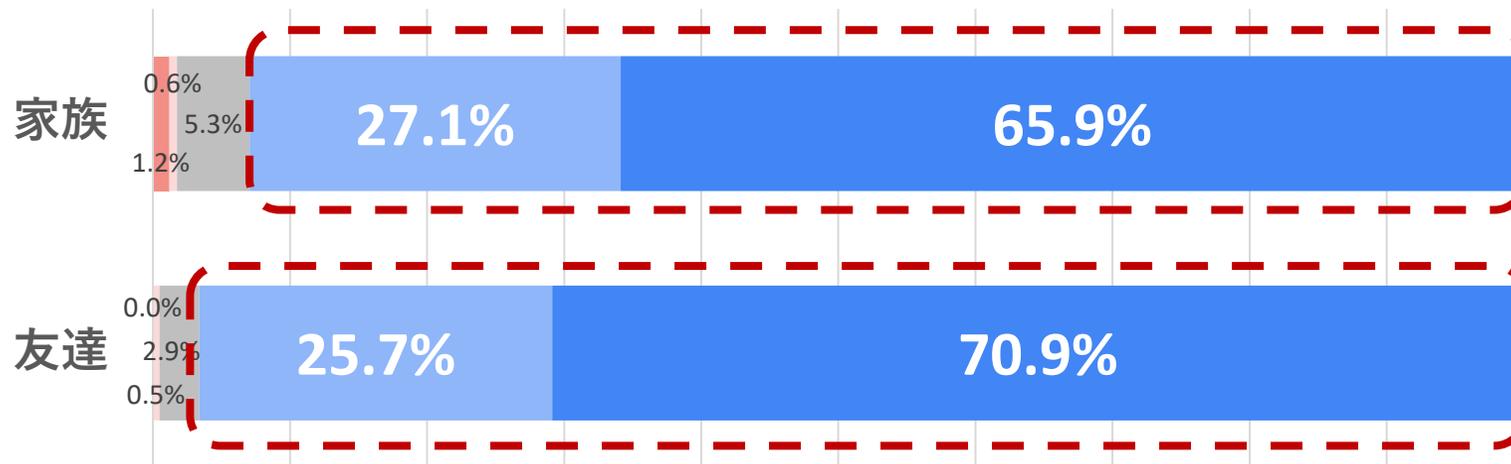
語り部に聞いたことを家族に話したい？／話した？ (N=3,504)



2024年度回答クロス集計「心を動かされた」と「家族/友達に話した」

2024年度JRCオンライン語り部 参加者アンケート
行事主催：日本赤十字社 宮城県支部
調査協力：東北大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔准教授
開催協力：公益社団法人3.11メモリアルネットワーク

聞いたお話を誰かに話した（3月追跡）



語り画さんのお話を聞いて、心が動かされたか

n=492

■ 5 全くそう思わない ■ 4 あまりそう思わない ■ 3 どちらともいえない ■ 2 まあそう思う ■ 1 とても思う

「家族に話した」参加者のうち、

語り部さんの話を聞いて「心を動かされた」割合が**93.0%**

「友達に話した」参加者のうち、

語り部さんの話を聞いて「心を動かされた」割合が**96.6%**

復旧期、平常時の災害伝承の意義

③平常時

人生を豊かにする
普遍的な意義



①災害発生時

早期避難で
命を守る意義

②復旧期

被災者、被災地域
にとっての意義

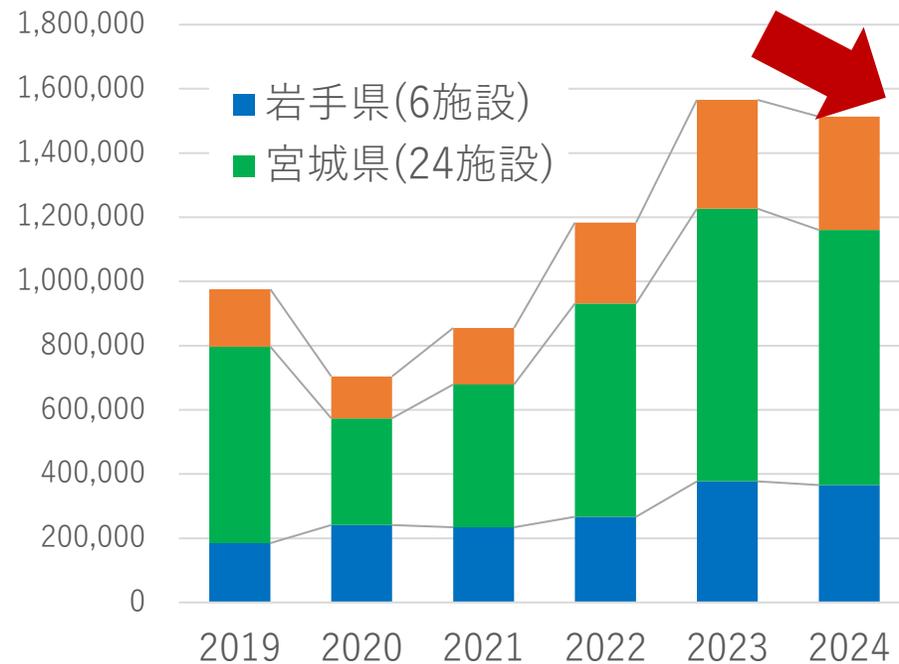


「15年で復興完了」の先を見据えて



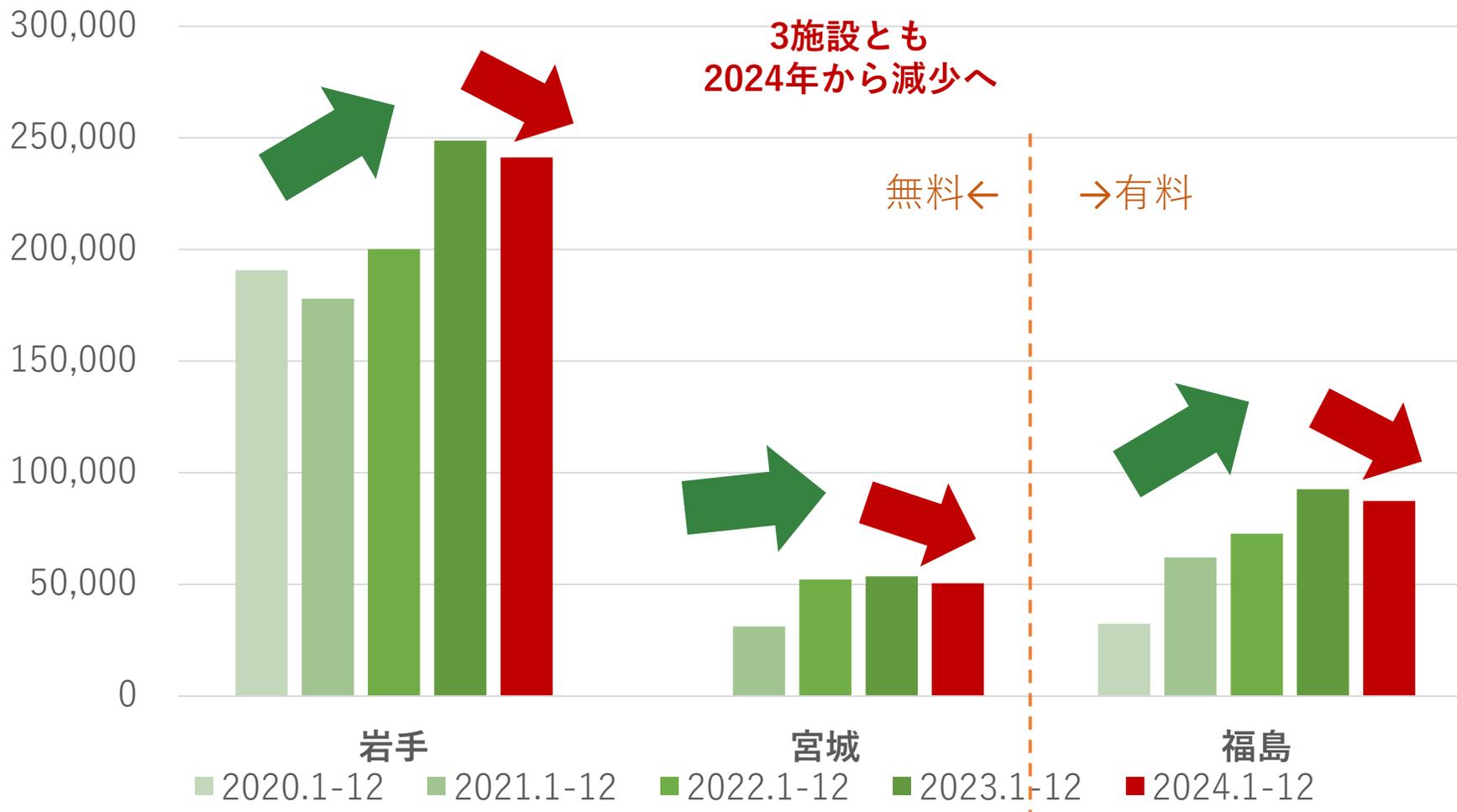
広島平和記念資料館：210万人
79年目も増加

「15年の先」も続けるためには？



東北38施設：151万人
14年目で減少

岩手・宮城・福島 県営伝承館 来館者 (1~12月) 推移



宮城県・岩手県・福島県の予算（伝承館管理運営）

R6当初予算	岩手	宮城	福島
事業名	東日本大震災 津波伝承館管理費	震災伝承 展示管理費	東日本大震災・ 原子力災害伝承館 管理運営事業
予算 (百万円)	116.3 (R4: 103.3)	38.7 (R4: 44.3)	446.7 (R4: 401.6)
部署	復興危機管理室 復興推進課	震災復興・伝承課	文化スポーツ局
内容	施設管理、展示解説、 企画展示、震災教育	震災伝承展示の 管理運営	伝承館の設置目的を効果的に達成するために、指定管理。 周辺市町村の震災伝承施設等と連携、 海外出張展示の開催を含めた情報発信 により、風化防止・風評払拭。



「15年で復興完了」のために、先進地に向けて

伝承/防災人材研修

内閣府 **2.6億円**(毎年)
(公財ひょうご21世紀研究機構R5決算)

復興庁 **0円**(13年間)

震災学習バス代/派遣

福島 **3,700万円**
(東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業R6)

宮城 **23万円**
(次世代担い手育成促進事業:県立学校語り部派遣R6)

推進組織 財政規模

広島 **18.20億円**
(公財広島平和文化センターR5決算)

兵庫 **13.98億円**
(公財ひょうご21世紀研究機構R5決算)

宮城^{R6}予算 **0.05億円**
(みやぎコンソーシアム部活動費補助R6)

地域団体補助

兵庫県 **4,200万円**
(ひょうご安全の日関連事業
公財ひょうご21世紀研究機構R5決算)

宮城県 **900万円**
(震災伝承連携推進事業補助金R6)

参考) 岩手・宮城を結ぶ全国被災地教員研修



参加者37人全員が
「期待以上だった」

「これほど内容が濃い素晴らしい研修は初めて」

「年代や校種、職名が異なる人たちが全国から集まり、交流できたことが財産になる」



参加費（7万5000円）に対する回答：

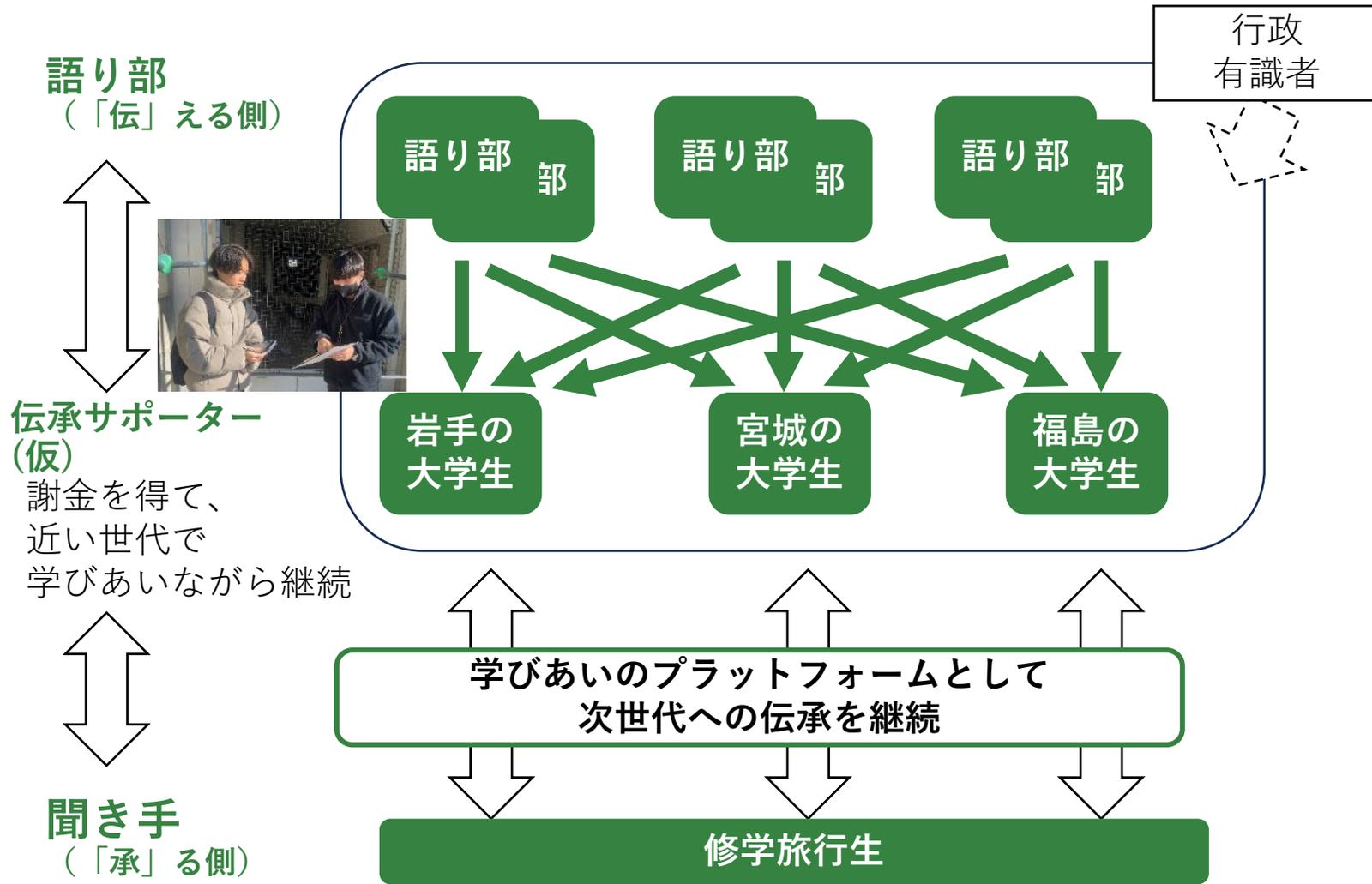
6人が「研修内容に照らして**安い**」

31人が「研修内容に照らして**妥当**」

311被災地視察研修 日程表【予定】

日	時間	内容	講師	コンビニ等	トイレ
8月6日(水)	12:30	仙台駅東口 バスプール (12:20集合) 出発		○	○
	14:00	道の駅大岩海岸		○	○
	14:30 ~ 17:00	気仙沼向洋高校遺構・伝承館 視察 ・指定避難先の高台が津波にのみれ、住民93人が犠牲になった形ノ下地区の語り部案内 ・校舎崩壊まで津波に襲われ、遺構として保存された校舎と伝承館を視察	語り部 小野寺 敬子 氏 案内 伝承館 語り部		○
	17:00 ~ 18:30	大槌町・ホテルはまぎく泊		○	○
8月7日(木)	8:10	ホテル発		○	○
	9:10 ~ 11:45	釜石市隣住居-いのちをつなぐ未来館 視察 ・釜石東中生と隣住居小生が率先して高台避難し、難を逃れた現場を視察 防災センターに逃げて160人近くが犠牲になった現場の視察 ・「いのちをつなぐ未来館」職員になった東中卒業生・川崎香樹さんの案内	講師 川崎 香樹 氏	○	○
	12:45 ~ 14:30	陸前高田 昼食・視察 ・岩手県最大の犠牲が出た被災地の被災、復興の現場を視察 ・国営祈念公園で伝承施設見学など		○	○
	15:30 ~ 17:30	南三陸町戸倉小舎 視察 ・児童約90人が高台へ避難し、難を逃れた現場を視察 ・当時の校長麻生川 教氏の案内と意見交換	講師 麻生川 教 氏		
	17:30 ~ 18:30	南三陸町・いりやど泊			
8月8日(金)	8:10	出発		○	○
	9:00 ~ 11:30	石巻市大川小舎 視察 ・児童74人と教員10人が犠牲になった現場を視察 ・遺族で語り部活動をする元中学校教員佐藤敬郎氏の案内	講師 佐藤 敬郎 氏		○
	12:15 ~ 13:15	女川町 昼食		○	○
	14:30 ~ 17:30	石巻市・旧門前小学校跡地 視察 ・500人以上が犠牲になった南浜地区の小学校の避難を、当時の校長鈴木洋子氏の案内で視察 ・東松島市野崎地区 視察 ・指定避難先の体育館で多くの犠牲 引き渡しで学校責任 認定の学校 高台移転の先遣列	講師 鈴木 洋子 氏		○
18:30	仙台・ホテルピスタ仙台泊		○	○	
8月9日(土)	8:00	出発		○	○
	8:30 ~ 11:30	仙台市内・TKP会館 運営の実際とワークショップ(90分) ・避難先になった学校の事情について、元石巻西高校校長 斎藤幸男氏の講話とワークショップ 視察総括・グループワーク(90分) ・グループに分かれて視察総括の総括	講師 斎藤 幸男 氏	○	○
	11:30 ~ 12:30	バス移動(車中で各自持ち込み昼食)			
	12:30 ~ 14:30	仙台市荒浜小学校遺構 視察 ・津波に襲われ、地域住民の避難先にもなった現存校舎を当時の校長先生の案内で視察	講師 川村孝男氏		○
	15:00	仙台空港着		○	○
15:30	仙台駅着		○	○	

参考) 次世代伝承サポーター (仮) による継承



(石巻に来て語り部さんの話と向き合っている時)

「自分がきれいになれる気がする」

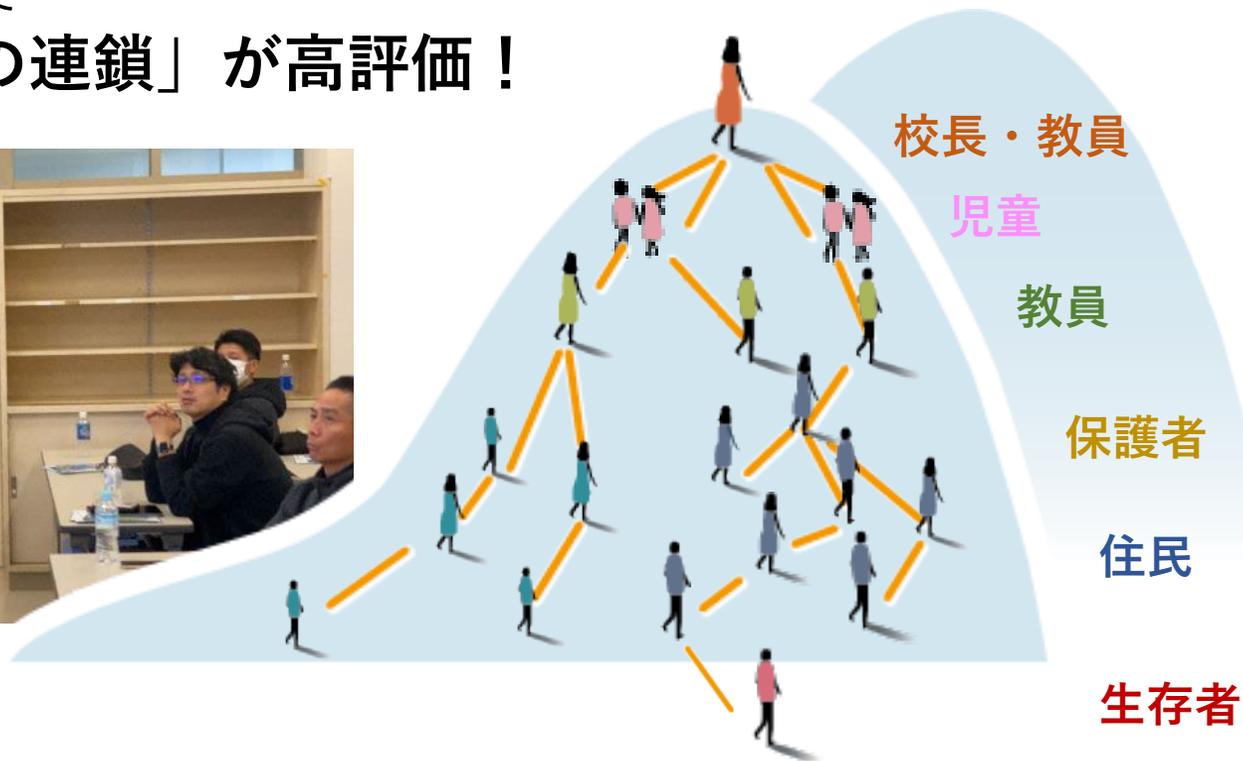
「先輩、マジでかっこいい」

参考) 企業研修等による収益・持続性向上

企業研修の試行で
現場での「避難の連鎖」が高評価！



実績：ライオン株式会社、
武田薬品工業株式会社、
NHK、仙台放送など



「避難のカスケードのような関係性、築いていきたい」
「覚悟を持たなきゃと感じた」、「自分の仕事に反映させたい」



顧客の期待に応え、
若者が継続できる仕事へ！！

参考) 「災害と教育」 実践交流会、能登とのつながり



穴水中学生の
能登語り継ぎ
プロジェクトへ

11月28-30日に
能登で語り継ぎ
育成訪問予定

参考) 「災害と教育」 実践交流会、能登とのつながり



【寄付者の期待】
「具体的な
効果や変化」
を報告してほしい

【311基金現状】

2017年から寄付募集開始
寄付額累計 (～2024年11月)

81,709,667円

2020年から基金助成開始
5年間+コロナ緊急助成累計

60,395,229円

【課題】 助成資金の枯渇

- ・ 継続見通しは **2.1年分**のみ
- ・ 個人寄付の減少



2018年3月	567,289円
2019年3月	1,153,469円
2020年3月	605,998円
2021年3月	201,481円
2022年3月	57,723円
2023年3月	263,363円
2024年3月	403,682円
2025年3月	345,098円

震災伝承調査 第1弾（来訪数調査）

1月実施→2月公開

震災伝承調査 第2弾（アンケート調査）

7-8月実施→速報8月公開→詳報9月公開→追加回答10月発表

震災伝承調査報告書 冊子

11月発行予定

質疑応答

2025.10.22 記者会見

本日はありがとうございました！

災害から未来の命を守るため、
震災伝承活動への
引き続きのご理解・ご協力を
お願いいたします。



公益社団法人

3.11 メモリアルネットワーク

命をつなぐ 未来を拓く